

令和6年度前期授業改善計画（基盤教育群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1101	基盤教育群	スタートアップセミナーⅠ	宮城大学での学び、学びの基礎（視点、社会の変化）、レポートの書き方、グループワーク等、内容が多岐にわたり充実しているとの意見が多かった。特に、少人数でのグループワークを評価する意見が多かったので、多くの教員に参画してもらいグループ学習の割合を増やしていきたい。
1102	基盤教育群	地域フィールドワーク	本科目は全学必修での学外演習（フィールドワーク）を伴うことから、講義開始の半年前には、訪問先となる自治体との調整を実施している。本年度においても、自治体と密に連携を取り、講義計画の策定を進めることが出来た。訪問フィールドは数年ごとに変更しているため、次年度は、フィールド変更が発生することが想定されており、改善計画においては、パートナーとなる自治体との調整を早期に進めることにしている。 なお、この規模での学外演習は、全国的にも類をみないものであり、その背景には、学外演習における事故や団体活動のコントロールが難しいこと等のリスクがあることから、9日目となる次年度の講義においても、学外演習におけるマナーの徹底を図りたい。 講義内容に関しては、これまでに作成してきたテキストや資料類を最大限に活用し、事前事後学修を重視しながらも、PBLやCBLといったフィールドでのアクティブラーニングに対する学生の理解が深まるべく、講義内容の精査を図っていく。
1103	基盤教育群	コミュニティ・プランナー概論及び演習	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 【自由記載：良かった点】（抜粋） ・グループワークでの作業が多く、チームで協力することの重要性を感じることができました。 ・グループワークが毎回あるので退屈せず受けられた。 ・実践的な授業が多く、楽しく授業ができた。 →コミュニティ・プランナープログラムにおける、地域での実践活動の前段階として、実際に地域社会で活動している方々の講話や、ワークショップ等による実践的な手法に関する講義を設定した。そこから得られた知識だけでなく、他者と関わり議論を交わしながら学ぶ経験をコミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かして欲しい。
1104	基盤教育群	コンピューターリテラシー	学生からの授業評価の結果において、多くの項目で20ポイント以上の値を得ており、また自由意見の中でも「情報教育の基礎が学べた」「講義内容が分かりやすくまとめられていたこと」等の肯定的な意見もみられた。演習での課題設定については、「授業のスピードが速かった」「MacBookユーザの説明が少なく困った」と相対する意見が示されていた。次回からは、全体の学生の理解度をしっかり把握しながら進める必要があることと、MacBookユーザにも親切な説明を心がける。教科書の説明が不足しているというコメントが散見された。高校までとは教科書の使い方が違うということは何度も説明したのだが、理解してもらえなかったようである。来年度は更に説明を繰り返す必要がある。 難しすぎるというコメントと、簡単すぎるというコメントの双方が混在していた。全員を満足させることは困難であるが、来年度はよりバランスに留意する必要がある。
1105	基盤教育群	基礎統計学Ⅱ	学生のコメントを見ると、この科目と内容の必要性については納得しているようである。しかしながら、自学自習の時間は極めて少なく、講義だけの理解では身につかない。また、定期試験の正解度が好ましくない。課題を積極的にこなすことと教科書等をもとにした復習を繰り返すことが望ましい。データの性質を見極め、判断し、適切なスキルと解釈能力を身につけることが望ましい。クラス間の学生のコメントや様子に差異があり、担当教員間で共有してより分かり易い講義に努める。
1106	基盤教育群	English GatewayⅠ	【Xreadingについて】Xreadingでいろいろな物語が読めて楽しかった。Xreadingの負担が大きい。課題が多すぎる。 →改善：Xreadingの負担が多かったとの声があったが、担当教員間で話し合い、後期は、達成しやすく、かつ学習の継続性が確保できるようなゴール設定へと変更した。今後も学生の取り組み状況をみながら、学生の実態に即した課題設定となるように検討していきたい。
1107	基盤教育群	English Self-ExpressionⅠ	各担当教員の授業内容や進め方を統一する必要があるため、再度担当教員が集まり、確認の機会を設けたいと考えています。 また、授業マナーについては、履修生全員が授業に平等に参加できる環境を整えることが重要です。 特に、授業中に何人かの学生がfluency向上を意識して積極的に発言することで、他の学生にも良い影響を与え、クラス全体にポジティブなスパイラルが生まれると考えます。そのため、文法の正確性を過度に気にする必要はないという意識を持たせ、間違いを恐れずに多くを語ることを大切にすることを学生に浸透させたいと考えています。
1108	基盤教育群	English for Academic Purposes	ELTの課題を常に提示してほしい→改善：課題は、単語の課題に含まれているので、それを解かないとわからない設計になっていたが、今後は、わかりやすいように、Teamsに投稿するなど改善する。
1109	基盤教育群	English Expedition	English Expeditionの目的は、特にプレゼンテーションのための英語での口頭コミュニケーションの練習を学生にさせることです。英語を話す機会を最大限にするために、学生はレッスン中にできるだけ英語を使うように奨励されます。
1110	基盤教育群	中国語Ⅰ	・マイクの音量を調整します・課題の提出方法は具体的な指示を出します・学生の理解を深めるために授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです・両クラスの学生人数のアンバランスを調整に工夫します・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めている工夫をし続けていきたいと思います・使用テキスト以外から（中国語の社会・文化）も様々な学習を取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います・授業方法に更に工夫をしながら、学生の皆さんが楽しく中国語力を向上できるような環境整備を実施していきたいと思います。
1111	基盤教育群	韓国語Ⅰ	言葉はその国の文化を代表するものだと言っても過言ではないと言える。韓国語Ⅰは韓国語の読み・書きができるようにすることを目標にしていて、そのために授業時に多くの韓国の言葉を学んでいる。その言葉を正しく理解できるためには関連する文化を理解しなければならない。そこで、授業時には言葉と言葉に関連する文化についての話がたくさん行われる。今回も言葉に関連して多くの韓国語の文化についての話や関連する映像などをを用いて授業が行われた。それにより、韓国の文化についてより深く理解できたと思われる。しかし、今回は、文化について偏ってしまっただけでシラバスより遅れが生じてしまった。その結果、今回の問題点として、単語の説明が詳しく、進スピードが遅い、などの問題が取り上げられていた。今後授業のスピードの調節やシラバスと合わせる工夫が必要とされる。また、教科書を中心にして、単語の選別とその数などの調節を行い、学生たちがより効果的に韓国語を習得できるように改善していく。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1112	基盤教育群	スペイン語I/Spanish I	<p>1. The current Spanish textbook will be replaced. Lesson materials will be condensed into the simplest amount of information that can be covered smoothly by the students at their own pace.</p> <p>2. Interaction between the students and professor will be improved by opening different communication channels. For example, students not only will be able to contact their professor by email, but they will also have a specific date when they can contact him directly via a video conferencing platform (Zoom, Google Meet, etc.) for questions related to class, in case of doubt or further clarification.</p> <p>3. Students usually perceive a new lesson as something very difficult because, in most cases, it is compared to the previous one. To make transition easier between lessons in a way that they do not think the new topic is abruptly difficult, at the end of the last lesson, a glimpse of the new lesson content will be given in addition to the preliminary explanations that we usually have at the beginning of each new chapter. By doing so, the students will be more familiarized with the lesson content.</p>
1113	基盤教育群	憲法（食産）	<p>【受講生からの要望】 要望は特になかった。次年度も受講生の満足度を満たす講義の実施を心がける。</p>
1114	基盤教育群	政治学概論（食産）	<p>昨年度とほぼ同じような形で授業内容で実施したにもかかわらず、いずれの項目も、従来にない低評価であり、他学においてもここまでの低評価を受けたことがない。大きな変更は、純粋なオンライン授業からハイブリッド形式にしたことである。これが学生の関心を引きつけられなかった要因かもしれない。あるいは、少数であるがゆえにたまたま学生の関心と合わなかったのかもしれない。いずれにせよ、学生の自由回答欄に回答がなかったため、推測の域を出ない。今季の学生に、授業形式についてもコメントを求めていき、改善すべき点を探っていきたい。</p>
1115	基盤教育群	国際関係論	<p>【受講生からの要望】 自分が集中力の持続しないタイプなので90分間集中して講義を聞くのが困難だったため少し休憩がほしいと思いました。個人的に、いま世界で起きている様々な事象について先生はどのような考えを持っているのかというのがもっと聞いてみたかったです。 出席確認の時間制限が短く忘れてしまいやすい。 授業で扱った具体例のリンクを貼って欲しい。 ⇒改善すべきかどうかを検討し、改善の必要があれば次年度の講義より実施する。</p>
1116	基盤教育群	社会と経済（食産）	<p>「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ちたり、新聞等で報道されている中身を理解できるようになってほしいと思っている。 来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。</p>
1117	基盤教育群	社会と哲学	<p>配布した資料は、コピーを作成し、それをカスタマイズするのが賢い利用法である、と助言してある。「資料が見づらい」ならば、見やすいように手を加えれば済むだけのこと。</p>
1118	基盤教育群	人口学概論	<p>授業評価による自由記述を踏まえ、今後の授業改善として以下の点を上げたい 授業計画と内容 ・1つの講義について特定のテーマについての解説やデータの紹介を行ったが、情報は随時更新されるので、データをアップデートする必要がある。 ・講義で紹介したデータは基本的にインターネットで公開されているものであるため、ソースを提示することで、今後別の講義課題でも活用可能なようにする。そのためにはサイトの利用についてのチュートリアルや作成も検討する。 ・海外のデータが少なく紹介しきれなかったため、今後の検討課題としたい。 課題 ・ほぼ毎回課題の提出を求めた。課題は基本的にその時間の講義内容を反映させてきたが、履修者が多く採点に苦労したため、内容について検討したい。 説明 ・講義内容が人口という身近なものであったので、興味を持ってくれた学生が多かったものと思われる。今後もなるべく興味のあるようなトピックを加えつつ説明を行いたい。内容が散漫になっている事も否めないため、バランスを検討したい。 ・一方的に話をするだけでなく、双方向を意識した内容を検討する。</p>
1120	基盤教育群	生命科学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。 【良かった点】（抜粋）新しい知識が得られる点。 コメント、ディスカッションの2つが斬新で面白かった。 資料を、紙とデータ両方で配布する形式が良かった。 講義の他に自身の研究に関することなども聞けて面白かった。 【改善した方がよい点】 ・専門性が高すぎてついていけないこと。 →（改善策）基礎から解説し、わかりやすい授業になるように努めます。</p>
1121	基盤教育群	環境学概論（食産）	<p>アンケート結果ではすべての項目において平均点より高く、陸地部分が多かった。コメントについても「良かった」との意見が大多数であり、受講生は講義内容について満足していたと判断される。成績では半数以上が秀および優の成績を収めており、全体的に良好であった。 一方、講義以外の学習時間がやや不足しているため、次回からは課題を増やすことで対応したい。</p>
1122	基盤教育群	地球と宇宙（食産）	<p>【この授業に関して、良かった点】 ・趣味で宇宙が好きだったので大学で少しでも学ぶことができ先生の話し方も分かりやすかった ・宇宙への関心が広がって楽しかった。 →引き続き、わかりやすい講義内容になるように講義の構成を改良していきたいと思います。 【改善したほうが良い点】 ・もっと宇宙について勉強したかった →「宇宙」の扱いは、本講義で半分を占めており、これ以上、増やすことが難しいです。「地球」について、もっと関心を持って学べるように工夫したいと思います。 【その他、意見、感想、要望など】 ・余談がとて面白かったです。また授業もたとえを使って説明して下さるのでとても分かりやすく、物理をとっていなかったのが不安でしたがとても楽しい講義でした。 ・対面の方が真剣に受講できたと思う。 →引き続き、物理の面白味についても伝えられるようにしたいと考えています。また、遠隔で講義をする際には、集中力が持続できるような方法を考えたいと思います。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1123	基盤教育群	数学概論	<p>■自由記載より（すべて転載）</p> <p>□この授業に関して、良かった点 高校の時に学べなかったことが学べてよかったです。／数学好きになれた／先生の喋りが面白かったです。／数学を学ぶことが楽しかった。親身になって教えてくれて良かった。／授業中の板書がとてもわかりやすかった。学生とのコミュニケーションが多くて接しやすかった。／高校数学までとは違った論理的な数学を学べた点。／説明がわかりやすく面白かった。／ホワイトボードに手書きで教えてくれるのはわかりやすかった／先生の話が面白かった点。／授業自体は面白かった／大学レベルの学問を学べた。新しい知識に触れることが出来た。／少し難しかったがしっかりと頭に入った／授業外で、分からないところを問う機会をテスト前に先生が設けてくれたこと。／論理的な数学に触れることが出来た。／生徒に寄り添って授業が進められていた点。／教え方が分かりやすかった</p> <p>□改善したほうがよい点 前期後半は、さぼっている人も居たので出席を毎回とってほしいです／ボードの下部に詰め込まれると文字が見えづらい。もう少し計算例をくると理解しやすい。／自分で問題を解く時間があまりなく実践できなかった為理解が不十分なところがあった。／進むのが早いこと。／先生が盛り上がり過ぎて脱線するので、教科書よりも授業内容が2割増で難しい点。／誤植が多すぎるのと、解答集がわかりにくかった／授業態度がふさわしくない生徒がいれば、もう少し注意した方がいいと思います。／少々難易度が高かった</p> <p>□その他、意見、感想、要望など どんどんモンスで課外授業やってくれ!!／数学が好きな気持ちを思い出した。夏休みでもっといろいろな問題を解いていきたいと考える。楽しい授業をありがとうございました。／毎回授業が楽しくて、数学が理解しやすかったです。／一人で盛り上がり過ぎて難しいことを話し始めるのはやめてほしい。追いつけない。</p> <p>■改善点で挙げられた「脱線」は他科目との関連などが含まれているとの認識だが、学生によりニーズに合っているとのコメントも拾える。今後も中上位層を意識した科目運営を継続する一方、モンスなどで、本科目を難しいと考える学生への対応も手厚く実施していく。教科書の誤植については、学生の指摘など多くの協力を得ており、順次改善中である。悪い学生は注意する。</p>
1124	基盤教育群	物理概論	<p>日常生活の中にある「物理学」の焦点を当て、身の回りの現象についてその原理などを定量的のみならず定性的に解説し、他人に説明できるようになることを目指して講義を進めたが、おおむね好評であった。講義中に周囲の学生と議論する時間を設けるなど、受け身にならずに自ら考えることを積極的に取り入れた。今後は、さらにこのような取り組みを進めていきたい。</p>
1125	基盤教育群	化学概論	<p>全体としては計画通り授業展開を行うことができた。対面で授業を実施し、手書きの板書が主な方法となった。太白キャンパスでは、電子黒板を使用することで、広い講義室においても手書き板書による展開が可能となっている。手書きによる実施のため、字が読みにくいなどの不具合もあったが、展開スピードについては、適度に保たれたようであった。ただし、できればもう少し受講人数を減らし、規模の小さな講義室での展開が理想的だとの印象を持っている。</p> <p>当該科目については、大学入学前の学習習慣として、問題と解答をセットにして、ひたすら暗記することが染み付いているような者が多く見られた。この方法論では、基礎の理解は全く身につかず、仮に試験で点数を取れたとしても、学群で開講される専門的な科目を学ぶための基礎づくりにより役に立たないものになってしまう。当該科目が設置されている理由は、上記専門科目を学ぶ上での基礎づくりにあるので、この点、自年度以降、受講学生にわかってもらうよう、内容を工夫する。単に試験で高得点を取ることが目的にならないように、受講学生にはその旨伝えたい。</p>
1126	基盤教育群	生物概論	<p>この科目では、毎回確認テストを行います。確認テストは、初めは何回でも受けられますので、高校で生物を履修していない学生やたまたまその授業を休んだ学生でも、自分で復習ができるようになっています。復習をせずに試験だけを受けていると、後半に1回のみ試験になると、復習しながら毎回試験を受けている学生とそうでない学生の差が大きく開いてしまいます。毎回復習をして理解したうえで確認テスト受けるようにしましょう。</p>
1131	基盤教育群	日本の歴史と文化	<p>授業計画や内容、教材の適切性目標設定などについて、授業アンケートでは良好な結果が却ってきているので、今後も授業の大枠は維持していきます。一方、知的関心の喚起については他の項目に比べて低い傾向が見られたので、皆さんの関心を呼び起こせるような問題設定をするなどして改善していく予定です。</p> <p>なお、授業各回で行っているアンケートへのフィードバックについて、時間が長いという改善点が数点寄せられています。知識の習得よりは思考することを重視する授業として、他者の意見に触れる機会をなるべく多く取った結果ですが、共有方法を検討し、フィードバック時間の適切化を検討していきます。</p>
1132	基盤教育群	東北の歴史と文化	<p>授業計画や内容、教材の適切性目標設定などについて、授業アンケートでは良好な結果が却ってきているので、今後も授業の大枠は維持していきます。一方、授業外の学習時間が不足しがちの傾向もみられます。時間外学修用の素材を提供し改善を試みしていますが、都度の授業内容との関連性をお伝えするなどして時間外学修の意識を高めるなどして改善を試みたいと思います。</p>
1133	基盤教育群	人と宗教	<p>高校で世界史（特に古代史）や倫理を学修していない学生さんには、自分で勉強するように指示を出しましたが、ちゃんと勉強しましたか。また、資料が重複して配布されたという意見がありましたが、それは、受講者が確定するまで新たな登録者に対応すべく度々にわたって同じ資料をメールで配信したこと起因するものかもしれません。対応は、各自、メールの文面から判断しましょう。また、配布した資料は、事典・辞書の代用として、さらには自主学習のために利用されることを目的としているものもあるので、すべてを講義で取り上げるものではありません。</p>
1134	基盤教育群	心理学	<p>授業評価アンケートのほとんどの項目で全学平均値を越えた評価をいただきましたので、講義の内容や方法等については、従来通り実施・運営していきたいと考えています。全学平均値を下回った、授業マナー遵守への配慮については、受講者が200名を越えていることもあり、目が行き届かない点があったり、関係のないスマホ操作やおしゃべりなど何名もの学生があちこちで行っている場合の注意の仕方が難しい（大きな声で全体を注意すると授業の雰囲気に影響を及ぼすこともあり）などの難点がある。とはいえ、真摯に講義を受講している学生も多く、そのような学生にとっての学修環境を整えていく必要は十分に感じているので、今後注意の仕方を工夫するなどしていきたいと考えている。</p>
1135	基盤教育群	健康科学	<p>授業評価アンケート自由記述の主なものは以下のとおりであった。</p> <p>良かった点 ・日々の生活に役立つ知識を身に付けられるだけでなく、他の講義に関連する内容も多く盛り込まれていた。 ・資料が分かりやすくまとめられていて分かりやすかった。 ・一番面白い授業だった。 ・授業は学ぶところは真剣に、面白いところは面白く、切り替えが素晴らしく、受けていて楽しかった。 ・とても興味深い授業で自分のためになった。</p> <p>改善点（自由記述要約） ・第1回から第5回のレジュメの誤字が多かったこと。 学生より改善点として挙げられたレジュメの誤字については、数箇所あり授業中に訂正を行なった。次年度は誤字を修正して資料配布を行う。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
1136	基盤教育群	スポーツ実技	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。感染症対策や熱中症対策等のため制限される活動も多々ありましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼシラバス通り（初回ガイダンスでの説明通り）に進めることができました。また、『良かった点』として、</p> <p><スポーツに関連する身体運動機能について>：「正しい筋肉の使い方や気持ちの持ち方などを楽しい球技とともに学べて楽しかった」、「身体に関することを理論編で学ぶことができてよかった」、「運動が苦手でも楽しめるような活動内容でよかった」等</p> <p><授業の進め方について>：「毎回の授業で丁寧に学習内容を事後課題としてまとめたことで復習でき、楽しいだけでなく学びをしっかりと得ることができてよかった」、「体調管理に最大限配慮され、無理のない範囲で必要なだけ体を動かすことができた」、「個人個人に合った目標設定がされていること」等</p> <p><交友関係について>：「他の学群の人と仲良くできるきっかけになったのでよかった」、「毎回グループを変えることで色々な人とスポーツを通して交流できた点」、「新たな交流の輪が作られ、スポーツの楽しさを実感できた点」等、多数の意見をいただきました。</p> <p>一方、『改善すべき点』として、①事後課題の提出が当日の20時までが早い、②もうちょっとハードになったらもっとのしそう、③（個人が特定されていないのではない）実技に関する評価は全くされていないのではないかと不安、といった意見がありました。①については、実技のフィードバックを鮮明に覚えているうちに記載していただきたいと思っておりますが、毎回説明していますように、実技後の体調変化も含め個々の事情によって翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調最優先にしています）。次年度以降は提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと思っております。②については、適度な運動強度、運動量は個人差が大きいため、各自にとって安全で適した運動（強度、量）となるよう工夫した点をレスポンスシートにも記載してもらおうようにしていますが、次年度以降は、相対的運動強度の調整法やルールの工夫等についてもガイダンス等で丁寧に説明したいと思います。③については、ガイダンス等で説明したように、レスポンスシートでのご自身のコメントや同グループメンバーからのコメント、履修者名簿（写真付）でのパフォーマンスチェック等により“加点方式”で評価しています（このカテゴリーの得点が8割未満になりそうな方には個別連絡し、必要に応じて個別指導なども行っています）。次年度以降は、この部分をガイダンス等でより詳細に説明したいと考えています。</p>
1137	基盤教育群	体を動かす楽しみ（食産）	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。</p> <p>感染症対策+熱中症対策等のため、一部制限される活動もありましたが、授業評価アンケートでは『良かった点』として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●説明の際に実際に動いてデモしてくれるためイメージしやすかった、 ●課題のエクササイズに取り組みやすくなっている点、 ●毎回目的が明確でやりやすかった、 ●毎回学生の体調を第一に考えて授業を進めてくれるので安心できる、 ●運動が苦手な人でも参加できるような配慮がしっかりされていた、 ●初めて話す人とも仲良くなれるようなグループ分けがとてよかったです、 ●運動が苦手な人でも活躍できる内容のゲームが多くみんな笑顔が絶えなかった、 <p>といった意見をいただきました。</p> <p>一方、『改善すべき点』として「レスポンスシートの締切を遅くしてほしい」という意見が1件ありました。実技のフィードバックを鮮明に覚えているうちに記載していただきたいと思っておりますが、毎回説明していますように、実技後の体調変化も含め個々の事情によって翌日以降も柔軟に受け付けています（小テストではないので体調最優先にしています）。次年度以降は提出期限の設定も含め、より丁寧に説明していきたいと思っております。</p>
1138	基盤教育群	スポーツ科学	<p>授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございます。自由記述の『良かった点』として、●とにかく面白い。からだの仕組みと健康なからだ作りを同時に学ぶことができる、●健康とボディメイクについて他で聞けないことをたくさん学ぶことができた、●学生に寄り添って授業が進められていた点、といったコメントをいただきました。</p> <p>『改善すべき点』についてはコメントがありませんでしたが、本学には文系、理系の学生がいますので、レスポンスシートの内容等に基づき、かつ受講生の得意・苦手な分野も考慮しながら（シラバスの範囲で）毎回の内容を検討し、必要に応じて個別対応（補習的な内容、応用的な内容、リモート指導含む）を行っています。年度（文系、理系のバランス）によって専門的な内容になることもありますが、次年度以降も授業以外でサポートできる体制をより強化していきたいと考えています。</p>
1139	基盤教育群	福祉入門（食産）	<p>「福祉」とはなにか、なぜそのようなになったのか、現在の福祉とはなにか、の概略を説明する授業である。詳しい事項については、テーマごとに勉強してほしいと思うが、ここ20年間に急速に「社会福祉」が増加し、社会全体の「福祉」像が大きく変わっている。今後とも変わっていくだろうから、事柄も重要であるが、福祉の考え方をしっかり学べることを重点として行うことを第1とした。その結果、説明を理解を旨として毎年変えているため、結果としてシラバスどおりに行かないというズレが生じてしまった。すべてを講義できることが望ましいが、難しいかもしれない。</p> <p>テストについてのクレームが目立ったが、これは直前に設問を変えたことが原因だ。受験した学生の皆さんには謝罪する。次回以降はこうしたことがないよう直前での修正は行わないようにしたい。また、事前告知どおりのテストでないとの指摘もあった。次回以降は事前告知に沿ったテストを行えるよう、告知内容を検討したい。レポートは、特に指示しない限りはコメントカードがレポートである。それはみなさんから毎回提出いただいている。</p>

令和6年度前期授業改善計画（看護学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2101	看護学群	看護学研究法	学生の皆さんにとっては、研究に関する授業は初めてであり、かつ、基礎となる関連科目は1,2年次であることから、難易度が高い印象が強かったようです。加えて、卒業研究を早期に開始できるために集中開講（週4時間）としているため、事前・事後課題の負担感も大きかったようです。一方で、「卒業研究のための知識を学ぶことができた」と評価も得ています。研究においても多分野で専門的であることから、学生自身の得意・不得意さによる理解の差も大きい授業内容であることは承知しています。そのため、担当教員の専門性を活かしたムバ形式をとり、必ず研究論文などの具体例を提示し、レスポンスカードで学生の理解度や、意見・感想をふまえた授業改善や補足は適宜行っていることから、学修達成に至っています。また、具体的な方法論は卒業研究を通して学ぶこともお伝えしており、授業到達目標として下げることはできない科目です。皆さんにできるだけ分かりやすい授業内容や進め方を、双方向にコミュニケーションをとって工夫したいと思います。
2102	看護学群	国際比較看護論	到達目標は過去数年にわたり大きな変更はしていませんでしたが、今回の授業評価では、「目標到達できる内容」および「難易・進度の適切性」の項目では全授業の平均より低く、その他のコメントでは「先生の求めていることのレベルが高い」という意見が1名からありました。これを踏まえて、到達目標の設定を見直していきたいと思います。 事前・事後学修時間は、全授業の平均を上回り、それぞれが学習課題に取り組んだ姿勢が読み取れました。特に最後のプレゼンテーションのために、調査や分析、スライド作成に各自が取り組んだことが反映されていたのではないかと思います。このプレゼンテーション課題については、個人ではなくグループでもいいのではないかと思います。これについては、検討してみたいと思います。ご意見ありがとうございました。また最後のプレゼンテーションについて、プレゼンテーションのやり方の説明が少ないなどのご指摘がありました。今回、授業スケジュールでオンデマンドの自己学習の時間にした回があったこともあり、十分な説明等の時間が例年に比べて少なかったことが考えられます。この点については、今後改善していきます。また、1名の方からでしたが、厳しいご意見があり、おそらく教員－学生間の意思疎通が十分に図れなかったことが背景にあるのではないかと考えられました。授業に臨む一人一人の学ぶ姿勢を大切に、国際看護について共に学べるように、今後一層気を付けたいと思います。
2103	看護学群	救急・災害看護論	本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると全項目で下回る結果となった。昨年の授業運営へのコメントをふまえて、今年度の事後課題の提示方法をMicrosoft Formsの課題機能を利用することで、提出忘れの学生が減少した。また、例年と同様に、臨床現場での実践家である救急看護認定看護師を東北大学病院や置賜総合病院からゲスト講師として招聘し、救急看護の専門性を教授することを目指した。自由記述の内容を確認すると、外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護・救急医療を学ぶことができたと考えられる。例年と同様に、今年度の心肺蘇生演習はシミュレタ人形を用いて、心臓圧迫・人工呼吸の程度を可視化させながら演習を行った。また、トリアージ演習を実際のトリアージシートを用いて行った。アンケート結果からも演習での取り組みが効果的であったことが伺える。 一方で、その他の意見として、筆記による中間テストの回答入力方法について改善を求める意見が挙げられた。回答入力方法については、来年度の課題として検討を行っていくこととする。
2104	看護学群	看護マネジメントⅡ	本科目は、看護学群の最終学年として、今後の自分の専門職としてのあり様にどのように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。X評価も到達目標に対応したレポート課題と毎回の授業内容に関する各自の思考を表現することによるものにしており、特に毎回の事後課題の共有は、学生の思考の拡張や看護観の形成、組織社会化の第一歩として役立ったと考える。 次年度は、新カリ生が履修することになるため、3年次の「看護マネジメント実習」の実習内容を考慮し、授業内容をより充実させていきたい。
2105	看護学群	緩和ケア論	緩和ケアについて、基本的知識を整理し、小児から高齢者まで各ライフステージにある看護の対象者へにケアの実際を学修した。臨床での実践的な活動の紹介は、実習を終え、就職を目の前にしている4年生にとって関心をもって学修することができる内容であったと考える。 来年度以降も、臨床看護師による緩和ケアの実際、小児緩和ケア、高齢者の緩和ケアの内容を維持し、4年生にとって有意義な授業を検討したい。
2106	看護学群	公衆衛生看護活動論Ⅰ	演習と連動することにより、講義内容の理解が深まることが考えられたが、講義科目（本科目）と演習科目（公衆衛生看護活動論演習Ⅰ）が交互になることにより授業計画の分かりにくさが出たようである。次年度は、カリキュラムが変わり、演習Ⅰが無くなるので、1つの科目の中で理解が深まり且つ分かりやすい授業計画となるよう設計していきたい。
2107	看護学群	公衆衛生看護活動論Ⅱ	全体としては、概ね学生の満足度が高い授業構成・評価方法等となっていたと判断できる。次年度から新カリキュラムへと移行するため、本科目の傾向を参考に組み立てていく。
2108	看護学群	公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	次年度からは、カリキュラム改正で本演習科目はなくなる。講義科目の中に吸収する形で、取り入れていき、講義の理解を深めるようにする。また、公衆衛生看護学実習との繋がりもあるため、オリエンテーションの予定や実習での実践に繋がるよう、計画・内容を調整していく。
2109	看護学群	公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	授業全体としては概ね学生の満足を得られる構成となっていたと判断する。次年度より、新カリキュラムに移行するため演習科目がなくなるが、本科目での到達目標等を参考に新たな科目を考えていきたい。
2110	看護学群	教育の方法	授業評価アンケートのほとんどの項目で全学平均値よりやや低い評価をいただきました。受講生が4年生ということで、これまでの教職科目を前提とした、ややレベルの高いテーマを扱いましたが、内容的に難しいところがあったのかもしれない。また、担当者が着任直後で、受講生の興味や関心をはじめ、これまでの履修内容の理解の程度等を十分把握しておらず、そのため学生のニーズに合わせた講義ができなかったことも考えられます。次年度については、看護学を学ぶ、もしくは学んできた学生を相手にしているということに十分配慮して、内容の選定や教え方などを工夫して、授業の実施や運営をしていきたいと考えています。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2111	看護学群	人間発達学	<p>自由記述の主なものは以下の通りであった。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生の体験を聞くことで親近感が湧いて授業内容が頭に入りやすかった。例の挙げ方がイメージをしやすくわかりやすい。 新しい知識が得られる点。毎授業に新しく学ぶことが沢山あった。 適宜休憩を挟む点。疲れることなく授業に集中できた。め友人と振り返ったり集中しなおすことができた。 説明がわかりやすかった。説明が非常にわかりやすく、内容もよく理解できた。 スライドがすぐ見やすかった。画像や動画を用いて視覚的にわかりやすく授業資料が作られていた点。 最初に授業回の到達目標がしっかりと明示する点。 履修者と意見を共有できること。意見交換の時間が多く、視点が広がった。 講義資料は余白が設けられていてメモを取りやすかった。 アセスメントについての講義が特に私が想像していた看護科での学びに近いものであり、良かった。 たまに面白い話をしてくださる。 <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業スライドの公開をもう少し早めて欲しい、期末レポートもあるということを初めの授業で伝えて欲しい。 <p>期末試験については初回および中盤回に説明しており、改善すべき点には当たらない。授業スライドはより早期に公開する。</p>
2112	看護学群	保健行動科学	<p>授業評価アンケートの自由記述に記載のあった内容な以下の通りである。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習形式で学んだことをアウトプットできた。 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 <p>事前・事後学習の時間にばらつきがあった。事前・事後学習に取り組む時間が少ない学生の傾向を捉えつつ、より学生が事前・事後学習に取り組みやすいよう事前・事後学習の内容を再検討する。</p>
2113	看護学群	医療倫理学	<p>各授業毎に課題を出し、学生個々が思考すること、表現することを重視して授業を展開しました。</p> <p>学生は、自分の考えを深めることができたと思います。倫理観は、人を対象する専門職にとって重要であり、避けられない必須の内容です。医療では倫理的なことの対立は、常に生じますが、ケアにより解決の糸口がつかめます。</p> <p>今後も、倫理的視点を常に持ち、人への関心を持って学んで行くことを希望します。</p>
2114	看護学群	形態機能学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 説明がわかりやすい。 わかりやすい授業だったスライドや話の内容がとてもわかりやすかった。 体の中の仕組みや構造について、図が多くわかりやすく学べた。 レジュメの図や表がわかりやすかった講義資料がもう少しわかりやすいものだったらよかった。 図が小さくて授業中では確認しきれない 授業資料難しすぎる 授業資料が分かりにくい 重要どころが見つけにくい <p>回答：複数の情報が1つにまとめられた図やスライドは、どれ1つとして無視していい事柄はなく、複数の情報を一体化・俯瞰して学ばなければならないものです。バラして断片的に学習すべきものではありません。ただ単に"見づらいだけの図"はその都度指摘していただければ対応できます。また、電子ファイル(PDF)で確認できます。拡大することもできます。小さい字などでも読めることは確認しています。</p> <p>授業および資料は論理的に展開させているので、論理的に思考さえすれば必ずと何が重要か分かります。論理的展開を無視して飛び飛びに勉強しては重要性が分かりません。また、中でも特に重要な箇所は赤など色をつけたり、そこだけ字を大きくしてたりしています。さらに、ただの暗記にならないように「なぜ、どのように」などできるだけ必要最低限の情報で論理展開しているので、決して難しい内容ではありません。むしろ注意すべきはただの暗記ですまして理解していないことです。教科書の中には薄っぺらい中身で「なぜ、どのように」などの情報に乏しく、一見優しい教科書のように結局暗記に済んでしまっている悪書もあるので注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙に書いてあること以外にも話してくれた。 先生なりに工夫はしていると思うのですが、授業で使うプリントの内容をただなぞっているだけなので、ただプリントを見ればよいというような印象を受けてしまう。また、課題などの復習がしづらいのもあまりいい印象を受けない <p>回答：以前に話すことは記述して欲しいという要望があったので、できるだけ記述しています。論理展開に基づくので話すことはほとんど同じになります。その一方で、多くを記述するにも細かくなりすぎたりするので、削ってバランスをとっています。資料を飛び飛びでなく、論理展開を追って丁寧に全て復習すれば最低限事足りるように作成しています。ただの暗記ではダメダメです。</p>
2115	看護学群	形態機能学Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、わかりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2116	看護学群	社会福祉学	<p>授業評価アンケートに回答いただきましてありがとうございました。社会福祉は、漠然とした理解のなかに存在し、具体的に把握することが難しい政策や実践であると考えています。そのため、履修学生には、可能な限り身近で具体的なニュースや事例を通して毎回、授業冒頭で取り上げて話し「生活」について考えていただくことにしました。そのため、時折、季節や気候、家族の話をしますが、それは「自己開示」という技法でもあることは授業で説明したとおりです。シラバスについては、毎回の90分で完結し、次回の授業に展開できるように課題や考えて欲しいことを提示しました。そのため、何かを確認したり、考えながら授業に臨めたのではないのでしょうか。他方で、明確ではない問いや課題のために、何が重要で何を覚えれば良いのか曖昧であったと思います。教材については、一般的に看護教育で使用されている標準的な教科書を基本としながらも、社会福祉の専門書から視点や方法、行政資料から政策について講義を展開しました。授業の難易度は、重要なポイントや覚える点がむしろ明確では無いために、難易度としては難しく感じられたと思います。社会福祉の知識や技術、理論については複数回「ワークシート」を通して体験をしていただきましたが、授業後から役に立つ知識や技術ではなかったかも知れません。授業目標と履修学生の到達度は、成績評価のとおりで十分に理解して論述することができています。毎週の授業に対して予習復習以上に、日々の生活について家族や友人関係、アルバイトを通して考えることができたのではないのでしょうか。科目担当者として、履修学生が社会福祉に少しでも興味や関心をもって、日々の生活を考えることができるように講義を心掛けます。</p>
2117	看護学群	保健医療福祉行政論	<p>保健医療福祉行政論では、公衆衛生の基盤となる法制度や、行政・財政の仕組み、保健医療福祉分野における政策など、公衆衛生看護を実践する上での必要な知識について学び、実践に活かせるよう理解を深めることが期待されています。基盤となる点は、法制度や行政に関わることなので、決められていることではありますが、学修する上では、膨大であったり、分かりにくさもあるかもしれません。また、今の制度や行政等の仕組みは、変化するものでもあり、変化や動向を捉え続けていくことも必要になります。</p> <p>大事な点の理解が難しかった皆さんの意見もありましたので、複数の教科書を見比べてみたり、予習・復習に役立てられるよう、参考書の紹介をさらに充実させたいと思います。今年度、授業資料のスクリーン投影でのトラブルが多かった点については、講義室の環境が整うよう施設担当者に伝えたいと思います。</p>
2118	看護学群	学校保健論	<p>開講時期である2年前期は、学生が教職に関する知識・スキルをほぼ学んでいない状況である。学生のレディネスにも配慮し、授業の難易度・進度などについて検討する必要があると考えている。</p>
2119	看護学群	病態学	<p>・ 期末試験の難易度が高すぎる ・ 期末試験の合格者が明らかに少ないので難易度を見直すべきだと考える ・ テストの難易度が高いと感じた</p> <p>回答：去年と問題文および正解が同じ問題（多くが）に絞っても、去年より平均点が10点も低いです。 X新作も大きく変更していません。例えば、「壊死に該当しない」を「壊死を必発する」に変更しただけのかなり重要かつ基本的な問題でも、去年より10点も低いです。結局よく知られている病気である「狭心症」と「心筋梗塞」の違いさえ理解していない状況です。 新作も大きく変更していません。例えば、「壊死に該当しない」を「壊死を必発する」に変更しただけのかなり重要かつ基本的な問題でも、去年より10点も低いです。結局よく知られている病気である「狭心症」と「心筋梗塞」の違いさえ理解していない状況です。 病態学で新出でなく形態機能学で既に学習済でもある事が多くあります。 ミトコンドリアタンパクはミトコンドリアDNAにコードされるタンパクと核内DNAにコードされるタンパクがあります。これはとてもとても基本的な事で形態機能学でも学習済です。しかも正解自体が簡単な選択肢のほうです。患者さんからミトコンドリア病の遺伝について聞かれる可能性もありますよね。「ミトコンドリアが母親由来」とだけ単純に丸暗記してまわった学生が多かったのかと推察されます。正解率の低い問題の大半はほとんどこの類です。難しかったのではなく、一部だけを覚える暗記だけにたよりにきちんと理解しようとする勉強をしていなかったことを反省してください。今後実習も深みを増すでしょうし、暗記にたよった勉強では追いつかなくなりしっかり考え理解することが必要だと実感できると思います。 例えば、問い「ミトコンドリア病について誤りはどれか。」の正解が「父親からミトコンドリア病は遺伝しない」 資料は4分割より2分割の方が見やすいと思いました。 授業資料が見づらい。もっとわかりやすい資料にして欲しい。 回答：まず単純な理由として、2分割はかなり贅沢な使い方（贅沢ができる所は別です。）で紙のコストもばかになりません。 他の大学と比較しても通常は、A4に6-4スライドまたはA3に9-8スライドが一般的です。 また、字は基本的に28ポイントにしてあり、やめない箇所のできるだけ12ポイントにしたりしています。通常の書類は10-12ポイントが一般的です。「4分割より2分割」など具体的に提案していただければ、理にかなってれば改善します。 小テストの解答時間が短い 回答：講義後の小テストであれば、全体的な平均点が高得点であることから妥当だと考えます。Webテストの観点からは、カンニング防止のためにもあまり時間を伸ばせません。</p>
2120	看護学群	疾病論Ⅰ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと考えております。</p>
2121	看護学群	疾病論Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと考えております。</p>
2122	看護学群	看護情報学Ⅰ	<p>学生からの意見を踏まえて以下の改善を考えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護職として活動するに当たり、臨床に関することのみを学修しようとする学生もいる中で、本講義は看護職としてのキャリアアップにおいて重要なスキルと知識であることを分かってもらえるような仕組みを導入する必要がある。 ・ 講義内容を精査し、要点を踏まえて重要である部分を強調するなど教授法を工夫する。 ・ 演習には必ず課題を出しているがその負担感を軽減するべく、スケジュール管理を検討する。
2123	看護学群	看護学原論	<p>看護学を学ぶための入り口の講義として、基本的な学びは達成できていると考えます。今年度は初めに自分たちが捉えている看護のイメージについて話し合い、最後に、学びを経て自分が捉える看護がどのように変化したか、変わらなかったのは何かを論述してもらいました。また、動画や事例、実践報告を通して看護について具体的に考える機会を増やしたことで学生の理解を深めることができたのではないかと思います。昨年度に引き続き今年度も海陸断面メタファチャートですべての項目において陸地が顔を出しました。このことから、今後もMoodleのレスポンスカードやSlidoなどのツールを利用しながら、学生の理解や疑問点を具体的に把握し、主体的な学びが可能になるような働きかけを続ける必要があると考えています。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2124	看護学群	ライフステージ看護学概論Ⅱ	ライフステージ看護学概論Ⅱは、様々なライフステージにおけるリプロダクション機能と精神機能の課題と援助について学ぶ科目でした。当科目では、全ての項目について全授業の平均値を上回っており、皆さんが関心をもって当科目に取り組んだことが見て取れました。特に「授業計画の分かりやすさ」「授業の要点・内容の整理」「授業マナー遵守への配慮」は、調査対象全科目に比較して高い相対値が得られました。皆さんが授業計画に則って教材や説明内容を手がかりに授業に集中して理解を深め、自分自身の目標到達度を高く評価できたことを嬉しく思います。そのことは、自由記載欄の「大きな学びを得た」「関心のある内容が多かった。1回ごとの積み重ねの大切さを知った」「考えさせられる授業で興味深かった」「特に精神の話に興味を持つようになった」というコメントからもうかがえます。一方で、「授業外の学習時間」は、調査対象全科目の平均時間に比べて43%ほど低かったです。皆さんが授業外にも自己課題に取り組めるよう、授業設計を工夫して展開していきたいと思います。
2125	看護学群	地域看護学概論	目標到達度は、良好な学生の割合が高く、授業評価の項目でも、6割の皆さんが目標到達ができると捉えられており、概ね適切な目標設定と到達度であったと思います。オムニバスでの地域看護に関わる教員による講義と、グループワークを取り入れながら、講義や皆さん同士の話し合いを通して、地域看護や在宅看護に関わる概念の理解が深められていたようです。一方で、自己学習時間については、全体の科目平均値よりもやや少ない状況でした。今年度は、教科書を指定しなかったことにより、自己学習の際に活用する資料が手元になく、自己学習につながらなかったことも考えられます。今後に向けて、より関心を持って学修に取り組めるよう、教材や資料について、さらに検討していきたいと思います。
2126	看護学群	リハビリテーション看護論	すべての項目について全学平均値よりも高く、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重なり、学生の皆さんの満足度も学習到達度も高かったと考えます。課題への取組成果も非常に高かったと評価しています。少人数授業であり、担当教員、ゲスト講師と学生一人一人の距離感が近く、意見交換できる環境にあったことから、「現場の人の意見や経験を直に聞くことができ良かった」と評価を得ています。「他の講義では知り得ない医療の現場を知ることができた」という声のように臨地実習においても非常に役に立つ内容で、臨地での実践家であるゲスト講師を賛賞にお呼びしています。次年度も履修者増への努力をしていきたいと考えています。
2127	看護学群	看護技術各論Ⅱ	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。講義資料のわかりやすさ、授業での説明がよかった点として書かれてありました。また、授業で重要だと考えた内容とその理由を記述するレスポンスカードの提出が授業の復習になるとのコメントは、教員側がねらいとしてたことが学生にも伝わっていたと評価できるものでした。これらの内容は継続し、学生の学習意欲を高め、知識の定着につながるような授業運営につなげていきます。 ・レポートの情報を早く出してほしいとの改善を求めるコメントがありましたが、こちらは「看護技術各論演習Ⅱ」の課題となります。
2128	看護学群	看護技術各論Ⅲ	本科目の授業評価は、回答された項目のうち「授業外の学習時間」を除いた全てにおいて全授業平均より大きく上回った結果であり、全体を通して良好な授業運営であったと考える。くわえて、昨年度と同科目の授業評価に比べて、ほとんどの項目でポイントが増加していた。昨年度の授業評価をふまえて授業運営を改善したことがこれらの要因であると考えられる。「改善した方がよい点」や「意見や感想、要望」の記載はなかったが、次年度も今年度の結果を参考に、より学びの質が高まるように授業内容の改善を検討し、工夫して実施していく。特に、単元ごとに実施する「小テスト」は、それぞれの要点が理解できているか確認することを目的とした取り組みであり、関係する看護技術各論演習Ⅲの学習とも関係していくことであるため、次年度も継続していく。
2129	看護学群	看護技術各論演習Ⅱ	・授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思います。よかった点として演習中の教員の指導方法と演習内容の振り返りについてのコメントがありました。振り返り（リフレクション）やヒントを与えながら自ら考える力を伸ばすための教育方法は、今後も継続していくようにします。 ・課題の提示時期についてコメントがありましたが、毎週、異なる演習が組まれている中、ひとつひとつの内容をしっかりと学ぶことが必要だと考えます。各演習ごとに事前事後学習課題がありますので、学生全体の取り組み状況を踏まえながら課題の提示時期については検討していきます。また、演習中の時間配分や教員の指導についてコメントがありました。授業時間内の不平等さに関しては、教員任せにするのではなく、グループ内で学生同士で調整すること、わからなく困ったことがあれば自ら質問して解決する姿勢も必要だと思います。他者と協働していく力を身につけるためにも、日常生活におけるコミュニケーション能力を高めていくことを期待しています。
2130	看護学群	看護技術各論演習Ⅲ	本科目の学習内容は「看護技術各論Ⅲ」とのつながりがあり、時間割設定としては「看護技術各論Ⅱ」「看護技術各論演習Ⅲ」とも同日であるため、スケジュールのタイトさや学習の負担感も多少はあったかもしれないが、全体を通して良好な評価だったと考える。本科目の授業評価は、対応する科目「看護技術各論Ⅲ」と同様に、回答するすべての項目において全授業平均より上回った結果であった。ただし、昨年度と比較すると、やや学習時間が少なくなっていたようである。シラバスや提示した演習スケジュールに基づき、計画的な学習ができるように、情報提供の時期や方法、グループ学習でのねらいなどについて、整理・検討していく。また、教員による指導内容の違いや学習機会の限界についての指摘もあったが、毎回の学習内容については事前に配信しており、演習中の補足も適宜行っていた。学びとして必要と感じた場合には自主的に質問するなど、自らのアクションも必要であったと考える。学習中の双方向のコミュニケーションをよくとることができるよう、今年度の状況を踏まえて、次年度の授業内容の検討を行い対応していく。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2131	看護学群	母性看護援助論Ⅱ	母性看護援助論Ⅱは、産褥期・新生児期における母子と家族の健康課題と援助について学ぶ科目でした。ほぼ全ての項目で平均値を上回り、特に「授業の要点・内容の整理」「教材と説明の適切さ」「授業マナー遵守への配慮」「学生自身の授業目標到達度」「知識や技術の習得・知的関心の喚起」の相対値が高かったです。この科目では特に「知識・技術」のDPに重きを置いていますので、そのねらい通りに皆さんが学ぶことができたことを大変嬉しく思っています。良かった点として「興味がひかれる内容でとても聞きやすくやる気が出た」「授業スライドも説明もとても分かりやすかった」などのご意見を頂いたことから、座学での講義内容は効果的な学びにつながっていたとことがうかがえました。また、「資料が非常に見やすかった」「内容は多くて大変だが、穴埋めになっている分、特に力を入れて勉強するべきことが分かりやすくなっている良かった」など、授業資料に対する満足度が高いことも分かりました。さらに、後半4回は4年生の先輩方がサポーターとして加わり、演習（看護過程・妊婦の看護・褥婦の看護・新生児の看護）を行いました。これに関しても「最後に先生と4年生とできる演習があったのが学びが深まり良かった」「演習を通して理解を深める事ができた」など肯定的な意見を頂きました。以上のように、当科目に対して全体的に高い評価を得たことから、次年度も今年度の内容を踏襲する形で行いたいと思います。一方、改善を要する点として、「演習の資料を当日ではなく早めに提示されれば事前学習も演習内容に沿ってより詳しくできる」ことや、「内容が多いのに一回の試験のみで内容の理解がカバーできるのか疑問に思う、何度か分野ごとに試験を分けたほうが良い」というお声も頂きました。これらのご指摘を参考に、より学習効果が上がる方策を検討してまいります。貴重なご意見をありがとうございました。
2132	看護学群	小児看護援助論Ⅱ	筆記試験の正答率が高く、皆さんが試験に向けて学修内容をよく復習した様子が伝わりました。講義資料、講義内容について、これからも内容の検討を重ね、学生のみなさんが小児看護学への興味関心を高め、知識の獲得につながるような工夫をしていきたいと考えています。技術演習（OSCE）について、演習の難易度や内容について検討を重ね、小児の看護技術の獲得につながるような内容にしていきたいと考えています。
2133	看護学群	成人看護援助論Ⅰ	大腸がん患者の事例を用いて、受診行動、診断、手術、回復の過程を通して、侵襲的治療を受け急性期～慢性期に至る看護について学修しました。さらに、クリティカルケア、リハビリテーション、緩和ケア、終末期の患者の特徴と看護概要について教授した。授業内では、看護援助を実践するための調べ方・思考方法についても説明し、講義、事例検討、グループディスカッションを行った。熱心に授業に参加し、事例の援助について考えることができ、必要な知識を獲得できたと考えます。3年生前期の成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論Ⅲ、3年後期の成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱにつながり、さらに看護実践力を高めてください。
2134	看護学群	成人看護援助論Ⅱ	「成人の内容は他の講義より難しい」という意見が、皆さんの評価を代表していました。最終成績は、平均点78（範囲65-90）点で、学習目標は良く達成されています。取り扱う基盤となる知識も確かに幅広いですね。そのため、教員も専門性の高い授業を担当するようにし、教科書を補足する資料を意識して皆さんに提示しています。自由記述では、レジュメや資料についての意見を多く頂きましたが、両極端の意見があります。初回に話しましたが、原則テキストを授業中に使うことをお伝えし、資料はそのまま皆さんの学習ノートにはならない、資料を使って授業を聴き、テキストと合わせて自分でノートを作ることを事前・事後課題としていました。臨地実習でみなさんが困るからですが、実習に行ってみてどう感じましたでしょうか。学生各自で、授業中のメモ、事前事後学修でのノート整理を行い、実習に使える学習を試みてください。自分に合ったノートづくりこそ役に立つと思いますので、学生の皆さんが工夫して良かったこと等もいつでも教員に教えてください。なお、文字の大きさ、画像のクリアさ、要点を強調すること、については、各教員が改めて認識したいと思います。評価方法についても、筆記試験も中間テストを入れてほしいという意見もありましたが、例年100名近い皆さんの意見は割れます。全員の要望をかなえることは不可能ですが、皆さんの意見を確認しながら進めたいと思いますので、毎回のレスポンスカード等で意見をお話ください。
2135	看護学群	成人看護援助論Ⅲ	今年は、例年とは異なる意見がたくさん見られました。これは、授業の受け手である学生の変化を反映しているものと思います。どうしても成人看護学の領域は、各論の幅が広いこと、また、「考えること」を学習として求めたことから、その素材となる資料はテキストの範囲を超えて種々準備しました。その資料の質（主に文字の大きさ）の悪さや、盛りだくさんで要点がつかめないなどの改善点の意見がありました。確かに分量が多いので、復習の内容は極力省き、看護の要点がわかりやすくなるよう工夫したいと思います。一方で、看護はHow toではありませんので、なぜ必要なのか、なにが必要なのかを対象者の医学的状態と看護の理論から導くために、各論では看護の視座から捉える病気の解説にも時間を割いています。領域別実習を経験すると、患者の看護のために必要な内容がある程度網羅されていることに気づいてもらえることでしょう。その他、授業中の声の大きさについても指摘がありました。気が付いた時に直接またはレスポンスカード等でお知らせいただくと、講義期間中に修正して、学習環境を整えることができますと思います。授業は教員だけでなく、学生も、ともに作るものだと思いますので、引き続き協力をお願いします。本科目は、成人看護学の対象論および援助論を教授する科目であり、臨地実習等の現場で、学んだ知識を活用して、受持ち患者の理解や看護実践につなげることで学びが深まり、学生自身のものになっていくものと考えています。
2136	看護学群	老年看護援助論Ⅰ	今年度、ポジショニングや排泄ケアなどの演習を多く取り入れました。それに関して学生の皆さんから「講義を聞くだけでなく演習があり、技術を身につけられた」「専門の外部講師に演習で技術を直接教えてもらい、さらに学びが深まった」等のご意見をいただきました。講義で得た知識や技術の習得と実践活用への発展を意図した科目構成は効果的であったと理解でき、来年度も演習継続を検討したいと思います。演習はクラスを半分づつ2コマに分けて実施したため、イレギュラーな日程となり、日程変更について早めに提示して欲しいという意見もありました。初回授業で2コマになることはお知らせしていましたが、メンバー変更等が直前までであったため、このご意見かと思っておりますので、早めに日程確定のお知らせが出来るよう調整をしていきたいと思っております。授業目標の到達度は概ね良好であり、今後も授業全体・各単元の到達目標を明確に示しながら授業を創っていきたく思います。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2137	看護学群	老年看護援助論Ⅱ	<p>学生の皆さんからは、「5限でどうしても眠くなってしまふ」「エクセルで看護過程をかくのが難しかったワードにしてほしい」「事例検討のフィードバックをしていただけてとてもよかった」というご意見をいただきました。</p> <p>これまでも、休憩の取入れや双方向性の授業を検討して実施していましたが、講義が続き疲れの出る時間帯であり、より一層、作業の時間を取り入れる等の工夫をしていきたいと思ひます。記録用紙については、これまでもExcelをご自身が使えるようになることのメリットを授業時にお伝えしつつ進めていました。しかし、看護過程の展開という主目的達成への取り組み自体が皆さんにとって大きな負荷になっていることが理解できました。そのため、今後は、副次的効果を狙ったExcel活用は必修とせず、Wordファイルの併用ができるように準備していきたいと思ひます。</p> <p>また、本授業では、「授業の到達目標がテストにあまり反映されていないように感じた」との意見もありました。これについては、テストでは到達目標のすべてを測るわけではなく、個人ワーク、グループワークなど科目内の様々な内容を通して目標達成につなげていますので、テストの内容についてはそのようにご理解いただきたいと思ひます。</p> <p>授業目標の到達度はまずまずであり、今後も学生の皆さんが考え、表現した内容をフィードバック・共有しながら、授業を創っていききたいと思ひます。</p>
2138	看護学群	精神看護援助論Ⅱ	<p>紙上事例を通して実習へのイメージが出来たことや、実習に向けた学びができたとのコメントがあり、事例を通して学習に取り組んだ姿勢が伺えました。紙上事例の取り組みについては、「成績に関わらないのに一生懸命取り組むのは厳しい」などの意見がありましたが、この点についてはこちらの意図が十分に周知できなかった点と思ひます。紙上事例に取り組んだことは、授業への参加態度・参加度として成績に反映されています。そして、事例のアセスメントや立案した計画の内容は評価しないという意味です。これは、みなさんは、現在、学習の過程にあり、アセスメントの間違ひや解釈の間違ひもあると思ひますが、そのことで減点にしたり、評価を下げるということはないという意図でした。今後は皆さんがより前向きに課題や事例に取り組めるように、説明内容に留意し、誤解のないように努めたいと思ひます。また、「事例検討において手書きをすることが辛かった」という意見がありました。これについては、パソコンで入力できるように、事例検討の際に使用する記録用紙を見直していきます。</p>
2139	看護学群	地域看護援助論	<p>授業評価アンケートから、具体的なイメージが付きにくい科目であることが窺えた。次年度は、各授業・各教材において要点や具体例等をこれまで以上に示しながら、イメージ化を図り、学生が自ら授業目標の達成感を得られるよう計画を設計していく。</p>
2140	看護学群	看護マネジメントⅠ	<p>本科目では、看護管理の基本的原則や理論を押さえつつ、履修生にとって「管理」という概念や機能をより身近なものとして捉えられるような内容構成や配置にしている。</p> <p>また今年度から「看護マネジメント実習」が開講することもあり、教科書も指定し、実習の準備となる内容（演習）も新たに取り入れた。</p> <p>授業評価のコメントでも演習を評価する意見もあり、学習効果が得られていると評価する。</p> <p>一方で、評価レポートの提示時期、ボリューム、提出期限、難易度についての意見が改善点として挙げられていることから、評価レポートへの取り組みに苦慮した学生が一定数いた可能性がある。この件については、領域内でさらに検討していきたい。</p>
2141	看護学群	在宅看護援助論Ⅱ	<p>ミニレポート、ミニテストと事後課題、期末試験、授業のレスポンスカード・ワークシートによる授業への取り組み状況、グループワークの貢献度で評価を行っており、最終評価では、総合的に学修の到達度が把握されていました。地域・在宅看護の学修は、他の看護学領域の学修にもつながり、多様な視点やさまざまな知識が必要となるため、要点の理解や整理がしやすいように、教科書を指定し、活用していましたが、課題学習では、教科書や参考文献の活用には、差がある状況が見られていました。看護過程のグループワークでは、お互いの視点や持っている知識等を知る機会となり、参考にできていたようでした。講義・課題での学習に取り組む、基盤となる自己学習方法を身に付け、学習したことを結び付けながら理解を深め、後期からの実習での看護実践につなげていけると良いと思ひます。今後は履修する皆さんが、見る、読む、聞く、記述する、説明する、実践をイメージすることができるプロセスを取り入れながら授業を行っていききたいと思ひます。</p>
2142	看護学群	公衆衛生看護援助論Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としては、授業のわかりやすさが低く出ている傾向があるが、公衆衛生看護の特徴である全てのライフサイクルを学習する必要があることも影響していると考えます。 ・1度の試験で全ての結果が決まらないように複数回の試験としている点は学生にも評価されており、この点は今後も継続していく。 ・学生の予習・復習時間が短いことから、予習・復習につながるような仕掛け作りも工夫していきたいと考えます。
2143	看護学群	公衆衛生看護援助論Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から開講した科目であり、学校保健や産業保健の現場を想像させながら講義を組み立てることは比較的難しかった。その点は学生の授業のわかりやすさや要点の明確さという結果に出ていると考えため、視聴覚教材等を活用しつつ現場を想像しやすい工夫をしていきたいと考えます。
2144	看護学群	健康相談活動	<p>到達目標に沿った授業内容、要点の提示などについて検討・改善を行う。</p>
2145	看護学群	教職論	<p>例年になく授業内容に難しさを感じた学生が多く見られた。これまで事前学修を前提として議論を中心とした学びを展開してきたが、学習定着を意識した講義を入れていく必要があるかもしれない。また、事前学習の時間については昨年度以上に学修成果の差が生じているため、次年度からは小テスト等の内容を組み入れつつ実施したい。</p>
2146	看護学群	教育学概論	<p>教育学のスタート科目として今年度は、テキストとして神代健彦・後藤篤・横井夏子『これからの教育学』（2023）を活用した。受講生の文章読解力の低下を意識し、これまで用いていたスライドでの情報量の少ない資料ではなく、あえてテキストによる講義を基本としたが、アンケートから教材の難しさを感じた学生が多くみられた。また、毎回行う授業の小レポートに関しては、本講義の到達度に届かない学生が例年になく多かった。この点については、事前事後学修の徹底を進めることで対応する。具体的には次年度は毎回の授業前に内容に関するテストを実施することを検討している。今後は教職課程コアカリキュラムに基づきながら、到達目標を再検討していく予定である。</p>
2147	看護学群	教育心理学	<p>授業評価アンケートのほとんどの項目で全学平均値付近の評価をいただきましたので、基本的に講義の内容や方法等については、従来通り実施・運営していきたいと考えています。ただ、わかりやすさや、要点明確・内容整理で全学平均値よりもやや低い評価となっているので、看護学群の学生の興味や関心に合わせた授業にすることを心がけたいと考えています。また、今年度については学生の興味・関心に合わせた内容に授業を調整した関係から、学生を混乱させたところもないとは言えないので、そのようなことがないように注意していきたいです。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
2148	看護学群	道徳、特別活動及び総合的な学	昨年度から非常勤講師、現職教諭（ゲスト講師）による講義と活動、理論研究をベースにした非常勤講師（大学教員）の講義、両者を総合する特任教授の講義と、授業の内容構成に変更した。ゲスト講師の講義への関心が強かったことはうかがえるものの、講義全体についての理解度は十分ではなかった。次年度は責任教員の立場から、本講義で扱う内容の教職課程における意義についての説明の機会を確保すること等、対応を検討したい。
2149	看護学群	特別支援教育	開講3年目の特別支援教育であったが、今年度は学生たちの到達度理解と非常勤講師の評価にズレが生じていた。責任教員として総合実習後の学生たちの特別支援教育への理解度、レディネスを把握したうえで担当教員（非常勤講師）との情報共有・連携を進めていきたい。

令和6年度前期授業改善計画（事業構想学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3101	事業構想学群	多変量解析	・次年度は開講保証であり、さらに受講者は減少するので、ほぼ個別対応で受講生に合わせた講義ができるものと思われる。
3103	事業構想学群	ブランディング	・来年はワークなどにも取り組み、少人数を生かした講義を展開したい
3104	事業構想学群	リスクマネジメント	「授業マナー遵守への配慮」の平均値が32.778と、全授業の平均値を上回っているものの、他の設問項目は全授業の平均値に比べて低い結果であった。特に「授業計画のわかりやすさ」の平均値が22.972と低かった。これを改善するため、第1回目授業において授業計画を丁寧に説明し、授業計画のわかりやすさを高める。 また、同アンケートの「授業外の学習時間」の平均値が0.822hrと、全体平均（1.279hr）を下回っていた。これを改善するため、事例調査などの復習課題を課すことを検討する。
3106	事業構想学群	地区・街区計画	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3108	事業構想学群	耐震設計法	一級建築士の受験要件を満たす上で、実質的には必修相当の科目であり、多くの皆さんに受講していただきました。「毎回の課題レポートを含め、講義での学びをきちんと復習することができた」「実際の事例を調査する課題では、調査を行う中で得られた知識もあり、より深い学びを得ることができた」など、講義には非常に高い評価をいただきました。一方で、成績としては秀でた学生が少なかったことから、小テストの実施方法などを見直すことを通じて、知識の定着につながる授業となるよう改善します。
3109	事業構想学群	ファシリティマネジメント	アンケート反応値が全授業の平均値に対して総じて低調であったので、特に学生の予習復習が円滑に進むよう、教材とその説明を改善する。
3110	事業構想学群	サステナブルデザイン	毎回の小レポートについて、翌週にその内容を振り返る機会を講じました。また、建築士受験に直結する話題や知識を紹介したことも、皆さんの関心の高さにつながったと思われます。引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3111	事業構想学群	エンタテインメントデザイン	・講義内容に関しては、授業評価結果では多くの項目で26～32ポイント以上の値が得られ、また自由意見でも「グループワーク等が多く、楽しく学ぶことができた」「先生が講義自体を盛り上げてくれたので最後まで楽しく受講することができた」「学校の授業といっても堅苦しくなく、毎週楽しみでした」などと肯定的な意見が複数得られている。 ・3コマ連続、就活終了済みの学生が多い4年生、進路はゲーム業界とは無関係ということを踏まえて、「ゲームという身近なものを通じて、社会人になった時に必要とされる、“自ら考える力”、“深く考える力”を、グループワーク等で育成する」授業デザインとしており、学生の意欲を喚起する良好なものであったと判断する。
3112	事業構想学群	デザインマネジメント	事前・事後学習の時間が多いので、出来るだけウェイトを下げられるように課題を出す様にしていきたい。それ以外の要項では平均値より十分に評価が高く、このまま授業の質を高く保ち続けていきたいと考える。
3113	事業構想学群	事業構想学概論	・講義で話す内容が多く、理解しきれていない者も多いようであるため、次年度に向けてはテキストも用意するようにしたいと思っている。また、学生間での話し合いの時間や手を動かして考える時間なども増やしていきたい。
3115	事業構想学群	キャリアデザインI	[1] キャリアや社会人として必要とされるスキルを理解し、[2] 自分について振り返りキャリアプランを検討し、[3] 自分なりの目標について伝える力を身につけること、これらを目指して授業を実施した。キャリアという曖昧な概念を扱う際には、それが「無意味なもの」や「つまらないもの」とならないよう、教員自身のキャリア形成、またその葛藤、女性としての悩みなどについても共有することを意識した。その結果、キャリアに対する認識が変わった等のポジティブな意見が聞かれたことはたいへん嬉しく思っている。キャリアはまた、他者との違いから学ぶことも大きいと考える。そのため、他者との関わり（対話や共有）から気づきを得られたとの意見もあった。 今後は、対話や経験談も交え、オンデマンド授業も活用しながら授業設計を検討する。
3116	事業構想学群	データサイエンス	授業評価に寄せられた意見として、Excelを活用して実践的な練習ができた、スライドがわかりやすかった、操作手順がわかりやすかったというフィードバックをいただいています。一方で改善点として、レポートの課題の難易度が高かった、練習問題について一つ一つの手順を解説してほしいとの声もありました。講義時間が限られていること、また授業外の学習時間が十分に実施されていないこともあることから、事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定して課題にスムーズに取り組めるように実践を増やすなど改善を進めていきます。
3117	事業構想学群	キャリアデザインIII	今年度は集中講義であったため、事前・事後学修の時間の確保が不十分であったり、キャリア目標と行動計画の作成に中期的視点が入れられなかったり、エントリーシートの添削までは3日間では不可能なこともあり、来年度は通常の講義に戻す予定である。
3118	事業構想学群	ビジネスモデル論	授業評価の結果からも、複数回のビジネスモデル作成の課題をこなすことによって(また、そのフィードバックをほぼ全員に返したことによって)理解は深まったかと思えます。今後も社会のニーズに応じて内容をアップデートして、実践で用いることができる知識を提供していきたいと思えます。
3119	事業構想学群	ミクロ経済学	目標到達できる内容が30.591で低かった。旧カリに比べ易しくしたので、それが影響している可能性もある。今後検討したい。難易・進度の適切性については、平均よりわずかに高かった。より難しい内容をどこまで取り込むか検討したい。
3120	事業構想学群	ビジネスコミュニケーション	必修であることから、落後者を出さぬよう内容を詰めすぎないようにしている。提出されたレポートや授業評価アンケートを見る限り、到達目標は十分達成できていると考えるが、一方、授業中のワークを求めるなど積極的な意見もあったので、さらに内容のバリエーションを増やしたい。
3123	事業構想学群	ゲーム理論	目標到達できる内容が32.3で平均よりわずかに高かった。数学補足を取り入れていったので、それが影響している可能性もある。今後もより分かりやすく伝えたい。難易・進度の適切性については37.5で、平均よりわずかに高かった。学生が取り組みやすい実験経済学とのバランスも考え、どこまで取り込むか検討したい。
3124	事業構想学群	地域学	本科目は、地域創生学類における専門基礎科目として必修になっていることから、履修生は同学類が中心となっている。地域創生学類の科目群の入り口となる科目であり、オムニバス科目であるが、冒頭および中盤、最終にグループワークを導入し、履修者同士の他者理解の場を多く設定し、地域概念の理解度の向上に努めた。このことは、他の学類の学生にとっても習熟度が高まる要因になったようである。次年度は、グループワーク部分の更なる改善を行うことにしている。内容に関しては、オムニバス科目ではあるが、全体の体系を明示しており、地域創生学類における3系（地域アントレプレナー、地域政策・公共、地域環境・計画）のアプローチからの講義を引き続き実施する。
3125	事業構想学群	地域創生特別講義I	本年度はRESASというツールについて、使い方から分析方法、政策立案までの一連の流れを知ってもらうための講義内容であった。グループごとにしっかり議論をして、データの使い方や政策アイディアの考え方を理解してもらうことができた。講義よりもワークが中心であったので、説明や課題に対する疑問が生じていたが、学生たちからの積極的な質問を促す工夫ができるとなると感じました。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3126	事業構想学群	地域実践演習a	ワークショップのデザインやファシリテーションの基本的な知識やスキルを身につけてもらい、その経験に基づき各自の現場での取組に活かしてもらうことを目的とした講義内容であった。各自が問題意識をもって講義や課題に取り組み、それぞれ合意形成を円滑に行うための考え方と手法を身につけることができた。学生の実践的なスキルを向上させるためのさらなる工夫を今後も心がけていきたい。
3127	事業構想学群	情報と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の情報関連教育が強化されたことを受け、学生の理解度を把握しながら授業内容の難易度の調整を行っており、結果として成績や授業評価等の結果は向上しており、概ね適切に調整がなされたものと考えている。引き続き、学生が楽しく学べることを重視してコンテンツ及び課題の改善を進めていきたい。 ・期末試験成績に基づく学修理解度も概ね良好な値であるとともに、成績分布も優を中心とした分布を継続できており、学生の理解度は良好な状況にある。授業評価の自由意見では「課題の容量に対して提出期限が早すぎることもある」との意見もあり、今後も授業及び課題の難易度調整を継続していく。 ・授業評価の自由意見では、授業内容に関して「情報の歴史まで、知らなかった知識を沢山身につけることが出来た」「様々なソフトを使用して課題を制作するのは大変だったが、新鮮で楽しかった」「様々なアプリやサイトを使用して課題を行えたことが大変だったが、楽しかった」などと肯定的な意見が多くみられ、授業が学生の興味喚起につながったことがわかる。また「課題に対するフィードバックが毎回あったこと」等も効果的な学習に繋がっているものと判断する。今後も最新の話題を提供しながら講義を進めることができるよう工夫を進めていきたい。
3128	事業構想学群	色彩と形態	授業評価より、実践的な内容、事例の紹介、デザインそのものを考えるための内容は良かった点として多く挙げられていたため、次年度以降も情報の整理とコンテンツの拡充を図っていく。特に実践的な内容については昨年度から良かったという声が多いため、引き続き内容の充実に努める。
3132	事業構想学群	都市と文化	配布資料や事前・事後学修について高評価を得ました。「内容が非常に面白く、知的好奇心を刺激される内容であった」「難易度自体は難しかったが、分かりやすい講義だった」などの評価も得ており、引き続き皆さんにとって充実した学びとなるよう、講義を実施します。
3135	事業構想学群	プロジェクトマネジメント	自由記述に何もコメントが無いのが残念である。期末レポートを見る限り、多くの学生が各自のやり方で様々なことを学んでくれたと思う。来年度はPMBOKが改定されるかもしれない。その内容次第ではあるが、初学者向けには第6版ベースの説明を継続する予定である。
3136	事業構想学群	ビジネスと情報	<p>生成AIを中心とした最新トピックスの提供、ビジネスで即戦力となるためのスキルトレーニング、グループワークによる課題への取り組みと発表を通じて、多くの学生が高いモチベーションで講義に集中し、最後まで全力で取り組んでくれたと感じています。さらに良い講義にするため、以下の改善を実施していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義名と内容の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・生成AIを中心としたIT技術が急速に進化しパラダイムシフトが発生しているため、講義名や内容を最新の技術動向に合わせて改訂することを検討します。 2) グループ順位発表方法の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・上位グループのみ順位を発表することで、努力が評価されモチベーションを高める効果を維持します。一方で、下位グループは頑張りが評価につながらず、結果としてモチベーションが下がるということがあり、そのデメリットを避けるため、順位を伏せた上で具体的かつ建設的なフィードバックを提供するよう改善します。 3) 授業時間の管理と予備日の設定 <p>予備日を講義日程に設けることで、時間超過やトラブルに柔軟に対応できるようにします。また、発表前チェックの徹底によりトラブルの未然防止を行い、かつ万が一講義時間の延長になってしまった場合には、次に用事がある受講者は退出しても良い旨のアナウンスを適宜行うようにします。</p> 4) グループ相談時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・授業内でのグループ作業時間を増やし、授業外での負担を軽減することで、学生が効率的に取り組めるよう支援します。 <p>これらの改善により、学生がより充実した学びを得られる環境を提供し、講義全体の質を向上させていきます。</p>
3138	事業構想学群	販売促進	・卒業生のゲスト複数名で行ったディスカッションが良かったとのコメントもあったため、これまでと異なった形式での講義もチャレンジしたい
3141	事業構想学群	人的資源管理論	本年度以降も講義内容、授業運営、評価方法の基本的方針に変更予定はない。最新の理論、研究、事象、事例、教育メソッドを導入することで、大学生に対して本来求められる「知的好奇心」を喚起し、修学意欲（モチベーション）を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的とする、双方の真摯な授業実施と展開を志向する。授業成果の最適化のために、授業の阻害原因（規程を順守しない学生の行動など）の除去を徹底する。授業の第1回以外にも、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を周知徹底し、「評価方法」「評価基準」を再確認させ、授業への説明責任を果たす。学問への真摯な取り組みを重視することでの「学習メカニズム」構築と、「キャリア形成」における主体的行動への十分な有効性を担保させることを考慮する展開を意図する。本年度についても、「事前に次回の授業内容について熟読して疑問点を明確にして記述する。」「事後に主要理論と主要概念を整理するとともに疑問点が解消されたのかを確認する。」の一定水準を達成したが、より深い精緻さの必要性を意識する。大学における専門科目であることを認識させ、不見識な受講態度、レポートの低クオリティ、日本語表現能力の欠落など、学問に対する逆機能・阻害原因への一貫した対応を実施してきたが、これについては継続実施する。「学問」とは「テキストを学ぶ」ではなく「テキストで学ぶ」ことを周知徹底し、事前学習の実行を指示したものの、少数の学生が全く認識していないことを確認した。次年度以降そのような学生に対して、所属研究室の教員にも情報を提供し積極的に協力を仰ぐことで、大学の専門科目としての質的担保を維持する。
3144	事業構想学群	行政学	出席し学修にとりくむ学生と、そうでない学生があるとの指摘に関して、実際に講義での話を聞くことの重要性に鑑み、適切に対処する予定としている。
3145	事業構想学群	国土・地域計画	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>本講義では、知識定着の確認を目的として複数回小テストを設けました。この作業により前回と当日の講義のつながりを再確認するとともに、より深い理解と学びを目指したものです。アンケート結果から、わかりやすい説明であったとのコメントを得ています。引き続き、実践的な学びと理解を深められるよう、そしてわかりやすい講義となるよう工夫をしていきたいと考えていきます。</p>
3147	事業構想学群	レジリエンスとビジネス	<p>授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <p>本講義では、グループワークが毎回あり、意欲的に取り組むことができたとの回答を得ています。グループワークの内容も各回目標設定・達成を繰り返すといった段階的・継続的に学習するものであったため、講義を重ねるごとに自身の考え方に変化が生じていることを実感できる、自身に学びに役立っているとの回答を得ました。今後は、事前・事後学修の内容について検討することで、より深い学びとなるよう工夫していきたいと考えています。</p>

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3148	事業構想学群	地域企業論	授業評価アンケートへのご協力、有難うございました。 本講義では、アンケート結果により、分かりやすい講義内容、グループ活動が多くさまざまな意見交換がなされる講義内容であったことについて良かった点として挙げられています。また、課題解決を目的とした事業の構想が講義に組み込まれていた点、実際にプロジェクトを詳細に考えるワークであったことにより、学習がしやすかったとの意見をいただいています。しかしながら、時間内に講義が終わらないことがあった点、発表を求む際の準備時間の少なさ、グループワークに伴う作業量の個人差が課題として挙げられています。今後、グループワークの実施方法について工夫していきたいと考えていきます。
3149	事業構想学群	非営利経営論	・授業アンケートの結果は良いため、学生の学びをさらに深められるよう講義を設計したい。 ・営利企業について学んでいる学生に対してもわかりやすく対比できるように講義を進めることを心がける。 ・時間外学習時間の量と質の向上を目指し、予習/復習課題を課すことを検討する。
3150	事業構想学群	グローバル共生論	【良かった点】 ・ゲストの方々のお話が毎講義興味深く面白かった。 ・フィードバックが丁寧で、知見を深めることができました。 【改善した方がよい点】 ・レポートの数が多く大変だった。 ・1年次の特別講義や国際協力論と講義内容が重なっているところがあったので、関連科目と講義内容が少しでも違うと、より知識を深められたり、レポートの内容に幅が広がったりするように思う。同じ講師の方でも、グローバル共生論とそれ以外の講義で講話内容を変えている方もいた。そのような形が望ましいのではないかと考える。 【その他】 ・国際協力論と同じ講師の方の場合、内容が似ている、またはほぼ同じになるのは少し残念だった。 ↓ 【授業改善計画】 ・決してレポートの数が多いいとは思わないが、レポートとパワーポイントの重複を避けるなどの対応をとってきたい。 ・講義内容が似通っている講師と、内容が重複しないように工夫している講師があり、できるだけ重複を避けてほしいという意見があった。この件については、講義内容の重複を避けるよう依頼するとともに、講義内容にもよるが、講師を替える検討をしていきたい。
3151	事業構想学群	地域プロジェクトマネジメント	現在の授業では、事前学習、対面式ワークショップ、現場実践という多様な学習フェーズを組み合わせた構成により、理論と実践の効果的な結合を実現している。少人数グループでの参加型学習により、全履修者が地域課題の分析手法を習得し、実践的な提案までできている点は高く評価できる。その成果は全員が「優」評価を獲得していることから明らかである。 一方で、事前学習への取り組みに遅れが見られる学生が存在すること、また履修者が事業構想学群に限定されている点が課題として挙げられる。地域課題の解決という観点では、他学群の視点も重要である。 これらの課題に対する改善策として、以下の三つを実施する。第一に、ガイダンス時に地域でのフィールドワークにおける事前学習の重要性を具体例を用いて説明し、その意義を強調する。第二に、各分析ツールの習得度を確認するためのミニテストを実施し、学生自身が実践に向けた準備状況を把握できるようにする。第三に、看護学群や食産業学群における地域貢献の事例を紹介し、多様な専門性を持つ学生の協働による地域課題解決の可能性を示す。 これらの改善策により、事前学習の質的向上と、将来的な他学群からの履修者増加が期待される。実施にあたっては、次年度から順次導入を進め、効果を検証しながら必要な改善を加えていく計画である。
3152	事業構想学群	ライフデザイン	到達目標に対し、それぞれの講義回の位置付けや進捗の認識を共有し擦り合わせながら講義を進めたい。 個々人が何を学びとして持ち帰ったのか、振り返る時間を設計したい。
3153	事業構想学群	交通計画	・講義で取り上げるテーマについて、次回の予告を行い事前学習を促すなど、講義を自分事として聴けるような工夫を考えたい。
3154	事業構想学群	commonsデザイン論	commonsという広い概念について、学生たちが主体的に学び、概念理解から事例検討まで行うような工夫をしてきた。授業の都合上、やや時間が延長してしまうことがあったので、時間通りに終わるように心がけたい。
3155	事業構想学群	災害の科学（水）	【改善した方がよい点】 ・毎週の課題レポートの提出期限が短いと感じた。講義はしっかり受けていたのに提出が間に合わない日があった。 ↓ 【授業改善計画】 ・課題については、1週間程度の余裕を設けたので、特に期限が短いとは思わないが、毎回の受講ノート（レスポンス等）については、当日の21時期限とした。今後は翌日にするなどの対応を考えたい。
3156	事業構想学群	地域環境政策	本講義科目は、前年度までとは違い、4年生に加えて3年生を対象として開講された。実際の現場での様々な地域環境政策の事例を学べるよう構成しており、身近な地域の環境政策事例や、国レベルの広い視点からの話題に触れて学修を深められる内容となっている。なお、前半期特に4年生は就職活動と重なり、面接対応等で講義に来られない学生も散見されたが、資料の共有や課題レポート提出により講義の内容ができるだけ理解されるよう進めていく予定としている。
3157	事業構想学群	地域産業政策	・出席確認について、途中からFormsと対面確認の併用とした。出席確認について引き続き工夫していきたい。 ・本科目の担当教員が代わることから、シラバスの内容や授業運営も変わる可能性があるが、学生の知的関心を高めるためにも、地域産業政策を企画立案したり評価するグループワークを取り入れるなどのアクティブな内容も取り入れることを検討したい。
3158	事業構想学群	地域医療福祉政策論	授業評価から鑑みても、地域福祉政策の授業内容について一定以上のご理解をいただけたと思います。これに甘んずることなく、社会のニーズに応じて内容をアップデートして、実践で用いることができる知識を提供していきたいと思えます。
3159	事業構想学群	地域環境計測（測量）	友達と協力して測量するのが楽しかった、などのコメントをもらった。 今後より丁寧な説明、質問への対応を心がけ、測量機器に触れる機会を提供して理解を深める講義を行いたい。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3160	事業構想学群	地理情報分析	<p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像で見返すことができた点。 ・オンデマンド講義の日はわからなかった部分を動画を巻き戻して確認できるのがよかった。 <p>→ 復習への利活用を想定し、講義動画の保存は続けていこうと思います。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難易度が高いと感じた。 <p>→ できる限りこまめに講義中に理解度の確認をおこなうとともに、質問を促すような工夫をしていきたいと思っています。</p>
3161	事業構想学群	評価論（行政評価）	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、環境省中央環境審議会の資料活用など、最新の国内動向を反映させた講義資料を作成する。 ・海外の事例も含めた講義資料を作成し、国際的な視点も養える講義とする。 ・仮定の再エネ事業をもとに、地域住民、事業者、行政など、それぞれの立場になって意見交換を行う場を設定し、疑似体験することで合意形成の手順、実際に体験する。
3162	事業構想学群	災害の科学（土）	農業にも興味を持ってました、のコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明、講義資料の改善をしていきたい。データサイエンスを意識した講義にしたい。
3163	事業構想学群	社会起業論	本科目は、これまで4年次開講であったものが、本年度より、3年次開講科目となった。そのため、本年度は、3年生と4年生が混じりあう形での開講となったが、各自が作成したビジネスモデルのプレゼン場面などでは、それぞれに刺激を受けていたようである。本講義では、社会課題解決型のビジネスモデルの作成までをゴールとしているが、最終成果物の出来栄え（評価）には差が生じている。事前事後での学修を踏まえて、相対的に評価が高まるよう、丁寧な指導を心掛けたい。なお、最終成果物を、学内のビジネスコンテストに提出するなど、学内企画との相乗効果も確認された。
3164	事業構想学群	防災計画	授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。 災害の発生条件によって異なる状況が想定される災害対応について理解を深めるため、グループディスカッションやケースを用いた講義設計とした。次年度もそのような機会を多く設ける。
3165	事業構想学群	国際協力論	<p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業テーマが決まっていた分、分かりやすかった。 ・現地に行った人の話はおもしろい。 ・毎授業違う講師の方のお話が聞くことができたことが良かった。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の量が多く、かつ難易度が高く、とても大変だった。課題に多くの時間を費やすこととなったため、もう少し減らしてほしい。 ・重いレポート課題が多い <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席している人が不利になることがないようにしてほしい。 ・人数の割に教室が狭く、窮屈に感じた。 <p>↓</p> <p>【授業改善計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、国際協力実践者を講師に招いたアクティブな講義を継続していきたい。 ・決して課題が多いとは思わないが（授業外の学習時間も平均より少ない）、レポートとパワーポイントの重複を避けるなどの対応をとっていきたい。 ・出席については、途中からFormsと対面確認を併用した。引き続き工夫していきたい。 ・講義室については、余裕のある設定を事務局に依頼していきたい。
3170	事業構想学群	感性情報デザイン演習Ⅰ	授業評価より、丁寧さやわかりやすさはある程度達成できたと考える。授業前後やメールで質問に答えるなどのサポートは好評であるため引き続き改善に努める。
3171	事業構想学群	メディアプログラミング	授業評価より、丁寧さやわかりやすさはある程度達成できたと考える。配布資料の利便性については昨年度から良かったという声が多いため、引き続き質の向上に努める。関連する内容を扱う感性情報デザイン演習Ⅰとの学習進度については、引き続き担当教員との連携をとり、互いに補い合えるように質の向上に努める。
3172	事業構想学群	感性情報デザイン演習Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は履修学生数が前年度に比べて減少し、適切な規模での対面演習指導で効果的な指導ができたと考えている。 ・演習での課題設定については、授業評価において動画編集に関して「授業のペースが遅い」との意見もあり、前半と後半課題の配分やそれぞれの課題内容について改善を図りたい。 ・上記の点を踏まえ、より一層の理解度の向上を目指して授業内容の充実化と教育方法の改善に努めていく。
3174	事業構想学群	コンピュータグラフィクス	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業コンテンツと教科書教材の併用することにより、試験成績等から学生の理解度については良好な値が得られている。今年度は優れた成績を修める学生の比率が高いものの、到達度に関する評価がやや低い傾向になっており、学生の学習に関する到達感を高める工夫を図ってきたい。 ・課題については、自由意見の中で「課題がやや重い」との記載もあり、引き続き課題の量及び難易度の調整を進めていきたい。 ・授業評価の自由意見はほとんど記載がなかったが、今後も最新の情報を取り入れながら、学生の興味を喚起できるような内容とするように努めたい。
3175	事業構想学群	ウェブデザイン	授業評価より、最新の事例紹介や実際の仕事内容に基づいた解説、実際のプロジェクトの紹介は好評であったため、引き続き取り上げることとする。また、実社会におけるプロジェクトとのつながりが重要な科目であるため、引き続き現場に近い人材による科目運営を検討する。
3176	事業構想学群	情報構造と可視化	<ul style="list-style-type: none"> ・指定日開講（土曜日）となっているものの、学生の出席状況は良好な状況であった。 ・学修に関する到達度に関しては、授業評価における到達度、難易度に関する評価は全学平均に比べればやや低いものの、+20前後の値を確保できており、到達度・難易度に設定については概ね問題がないものと判断する。今後、学生の到達実感を高めるような工夫を図っていく。 ・事前事後学習については、指定日の3コマ開講であるため全体としての課題量は低くなるが、今後も適切な課題の量・難易度を設定し、適切に事前・事後学習ができるように配慮したい。 ・授業評価において、一部学生から改善すべき事項が指摘されているが、改善するように努めたい。
3177	事業構想学群	情報システムデザイン	クラウドベースの開発環境を用いることで環境構築や設定をスムーズにできるようになり、より情報システムの設計や実装に注力できる学習環境を整えました。さらに、授業目標到達度を向上すべく、到達目標の調整と練習問題を多く用意していきます。講義時間が限られていること、また授業外の学習時間が十分に実施されていないことから、事前・事後学修やレポートにおいて難易度を適切に設定して課題にスムーズに取り組めるように実践を増やすなど改善を進めていきます。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
3180	事業構想学群	環境心理・行動学	ミニットペーパーで集めた授業への疑問・質問について、次回授業の冒頭で回答している点が評価されているので継続したい。
3183	事業構想学群	構造力学Ⅰ	非常勤講師の権代先生による科目でしたが、限られた時間の中で、履修者の皆さんが権代先生と対話しながら授業内容を理解しようと努力したようすがうかがえました。引き続き同様の科目運営がなされるよう、努めます。
3187	事業構想学群	IoT建築論	座学の形式にみあった教室への変更を希望する。
3189	事業構想学群	コミュニティ・プランナーフィールド	本講義は、コミュニティプランナー科目のキャップストーンに位置付けられており、前期および後期開講のCPFW演習Ⅱを通して、チームでのプロジェクトを展開し、最終報告会を実施するものである。前期は、講義内で、チームビルディング及び企画構想を行い、夏期休暇中に、フィールドでのプロジェクト実施となった。プロジェクトの実施フィールドは、七ヶ浜町と柴田町であった。この講義の改善計画は、後期科目を実施後に行うことが適切であるが、前期段階においては、テキストを活用した事前事後学修の更なる改善を課題としてあげておきたい。

令和6年度前期授業改善計画（食産業学群）

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4101	食産業学群	フードコミュニケーション	本講義ではリスクコミュニケーションの実際として学外実務者にゲスト講師として話題提供をいただくことが多いが、今期は何度か時間をオーバーしてしまったことがあった。授業時間内に終わるように依頼するとともに、授業時間コントロールに努めたい。
4102	食産業学群	食感性科学	学生評価によると、「知識や技術の習得・知的関心の喚起」・「授業計画のわかりやすさ」・「難易・進度の適切性」、「教材と説明の適切さ」、「学生自身の授業目標到達度」・「授業時間外の学習時間」については、どれも全授業の平均を上回っている。よってこれらの項目については、次年度も同様の内容を行う予定である。一方で、「授業マナー遵守への配慮」・「目標到達できる内容」に関しては、やや全授業の平均値よりも低かった。次年度は、「授業マナー遵守への配慮」・「目標到達できる内容」を考慮して授業設計をしていきたい。
4103	食産業学群	水産資源学（フード）	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。今年度は、非常勤講師を中心とした授業実施であったため、マナー配慮の点で評価が低かった。来年度は、マナー配慮の点も改善していきながら、理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。
4104	食産業学群	フードサービス産業論演習	・おおむね高評価をいただいたので、原則的には同じ形式で授業を実施したいと考えている。 ・事前・事後学修については人によってばらつきが出ていたが、就職活動と並行して受講指定が学生にとっては学修時間の捻出は難しかったのではないかと。とはいえ、グループワークに重きをおいている授業であるため、授業外の学修については、互いに成果を報告し合うなどの対策をとっていききたい。
4105	食産業学群	フードシステム解析演習	計量経済学、オペレーションリサーチ、多変量解析等は、難しく感じるかもしれませんが、実際にデータを手にとって、いろいろと分析してみると楽しいものです。理論と実践をいったり来たりしながら、フードシステムに関わることに興味を広げてほしいと思います。分析手法の理論に加えて、実社会でデータがどのように使われているのかも分かるように、演習の中身や解説を改善していききたいと思います。
4106	食産業学群	ライフステージ栄養学	授業アンケート結果によれば、授業計画のわかりやすさ、授業の要点・内容の整理、教材と説明の適切さ、目標到達できる内容、難易・進度の適切性、知識や技術の習得・知的関心の喚起、学生自身の授業目標到達度は平均を上回っていたことは良かった。授業の良かった点として「講義が分かりやすかった。」、「穴埋めしながら進められるので、とても分かりやすかった。」、「テスト範囲が明確に提示されたのがとても勉強しやすかった。」、「シラバスの穴抜き(重要部分)が明確で、試験勉強に取り組みやすかった。」、「重要なところを授業内で教えてくださったため、効率よく勉強ができた。」、などの声が聞かれたことは、卒業後の仕事や生活に活かせる内容であり、本授業の目的が理解されたと感じている。その一方、「文字が羅列している部分で重要なポイントがどれなのか分かりづらかった。全体的に読みづらかった。」との声も聞かれたことから、日本人の食事摂取基準に準拠した資料となっている点をもう少し分かり易くまとめるように改善していききたい。また、授業外の学習時間については、昨年同様に就職活動や卒業研究も重なったことから低調であったことは残念である。次年度は、授業外学習が進められるようミニテストなどの実施して、よりきめ細やかな授業として行きたい。
4107	食産業学群	食産業・政策史	本講義は就活期間と全く重なっているため、出席できている学生も連続して受講できる状況ではないのが残念である。ただし少人数講義なので、質疑などアクティブ・ラーニングを積極的にとり入れた授業を行った。しかしながら、コメントでは「少しレベルの高い授業」のため「軽い興味関心で履修した人」が置いてけぼりになることの指摘があった。4年生科目なのでそれなりに高度なものになっている。学生ともしっかり質疑を通して理解を確認する必要があるが、あまりアクティブ・ラーニングばかりだと予定通りの進行ができなく悩みどころだ。 大学で歴史を学ぶことの意義は、出来事の羅列や物語にあるのではなく、人と社会を動かす「力」を理解することなので、その大きな「力」が理解できるようになることをこの授業では目標としている。レポート課題は、ネットなどを調べれば一つのことしか出てこないが、実はそれにはいくつもの考え方があって、自分で考えなければ書けないものを出題することになっている。
4108	食産業学群	食産業学概論	試験問題については到達目標への達成度を測る目的のもとに作成してあり難易度については調整をかけ、不公平のないように評価している。レポートの量が多いとの意見があったが、事前・事後学修時間から考えると説得力はあまりない。学修における単位の意味をよく考えてほしい。
4109	食産業学群	食材生産・加工実習Ⅰ	学生のほとんどが食材生産・加工の体験が初めてであるため、興味、関心を持って取り組めたようである。屋外での実習で指示が聞こえにくい状況が見受けられたため、複数のグループに分けてそれぞれに教員、TAを配置すること等の対応を検討したい。 ◆生産分野：実習の内容や配布資料、レポート課題を見直し、圃場での野菜栽培や家畜の飼養管理等、食材生産の意義や管理の重要性を理解し、生産に関わる知識を身につけられるよう工夫する。また、日本農業技術検定3級レベルが身につけられるような教材を工夫する。 ◆加工分野：加工の意義やレポートの書式に関しては、説明は行っているものの十分に伝わっていないところがあるので、以降は記載すべき内容について明示するようにしたい。
4111	食産業学群	インターンシップ	・動画制作に関しては例年難しいという意見が多々ありましたので、今年度からは動画制作ではなくプレゼン制作に変更したため、その点での意見はなかったと考えます。 ・授業外の学修の時間が平均より少ないので、企業研究の予習や復習など課題に対する考察時間を1.5時間程度/回になるように考慮していきます。 ・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。
4113	食産業学群	食産業学基礎演習（生物生産）	みなさんのご意見を読むと、研究室ごとの演習が高評価であったことがわかりました。今後も研究室での少人数の演習を継続します。以下はみなさんからのコメントです（抜粋）。 [良かった点]研究室訪問でバイオ資源について興味を持つことができました。 [改善点]各回異なる先生の説明を聞くことが出来て面白かったが、気になる研究室がたくさんあったため、もっと最終回の研究室訪問の回数を増やしてほしいと思った。 [その他]訪問先の先生とたくさんお話しできて楽しかった。もっとさまざまな研究室を周りたかった。
4115	食産業学群	食料・農業・農村政策	この講義では、大事どころと大事でないところという区分は難しい。講義でもたびたび言及しているが、学び方があり、特に歴史を踏まえることが重要なので、日本の戦後史を学んでいる方が理解しやすい。講義は自分のペースでは学べない。要点がわからないという学生は、事前・事後に是非指定した参考書をしっかり読んでほしい。なお、講義では何度も言及するようにPPTは説明のための単なる資料であって、主体は講義での口頭の説明である。内容が分るにはしっかり講義を聴くこと。その補足としてPPTを資料として参考にするようにしてほしい。また、聴くためには、教室の後ろに座るのではなく前に座る。あるいはホワイトボードが見えなければ、見える位置に移動するなどして自分の力で柔軟に対応してほしい。それに私語をする学生は後ろに座りがちだし、授業中出入りして授業への集中を削ぐ学生がいることも承知している。そういう学生からは離れることで身を守る方法だ。私も努めて注意をしているが直らない。昨年はWebのFormsで小テストを実施していたが、Webの性質上カンニングがしやすいという批判を受けて今年度は実施しなかった。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4116	食産業学群	キャリアインターンシップ	・オンラインでのグループディスカッションや面接練習等、時代の変化に考慮し必要に応じて積極的に実施していきます。 ・夏休み期間中の実施研修での企業と窓口教員とで調整に時間がかかるため、柔軟に対応する必要があることを学生に周知していきます。 ・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。
4118	食産業学群	食農素材化学	学生のコメントを見ると、他大学の教員からのレクチャーについては良い刺激になり、興味を引く印象を持ったようであった。また、複数の教員からバリエーションのあるシラバスを展開することについては、今後も継続し、シラバスにそって更に担当できる教員を増やしていきたい。
4119	食産業学群	植物生理学	植物生理学の講義では定期的に小テストを実施し、学生の学修促進、知識の定着に努めている。一部の2年生以外は趣旨を理解して、概ねよく勉強していた。ただ、今年度に限っては、あまり事前事後学修せず、小テスト及び本テストのための準備もしていない学生が一定数いたように思われた。次年度はWebclassを用いた事後学修に力をいれ、もう少し成績の底上げを図りたい。
4121	食産業学群	食用作物学	本授業では食用作物についてより関心を持ってもらうため、できるだけ実物を見たり触れたりできるように教材を準備した。その点、授業評価アンケートにおいても良いコメントを複数いただいた。次年度は、より充実した内容となるように工夫する。 事前・事後学修にあたってはシラバス上での指示と、教材の配布（オンライン）を行ってきたが、授業評価アンケート結果より、学修時間の向上には効果が不十分であると考えられた。学修方法の具体的な指示を改めて講義時間中に指示することで、学修時間の確保を促す。 本科目ではこれまでに、食用作物の品種育成に関する内容がやや不足した感があるので、次年度は具体的な品種育成経験に基づく講義内容（特任教員による講義）を取り入れることを計画する。
4122	食産業学群	植物生産実験実習Ⅰ	作物分野：栽培実習を行うことにより、講義で学んだ事項をより深く理解できるよう、事前・事後の課題を工夫する。 野菜分野：生理生態と栽培管理を関連づけた内容になるように検討したい。 土壌分野：作物の生育と肥料成分との関連を深められるような実習内容を検討する。 植物病理分野：実施内容に対応する講義科目は後期の開講であるため、実習内容の理解に必要な病害虫診断の講義も併せて行う。
4123	食産業学群	植物遺伝育種学	授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。 【その他、意見】ゼミや卒論発表にも繋がると思うので、レポート発表について先生からの批評をいただきたいと思いました。 →（改善策）次回から最後に全体の講評を行います。
4124	食産業学群	露地園芸学	①テキストを使用したことにより、内容が散漫にならず、まとまりの良いものになったかとは思いますが、その点は今後も踏襲していきたいと思えます。 ②しかし、一方、内容の理解はできていても用語を覚えることが苦手な方々について、どのように評価すべきか？という点で課題が残りました。来年度は試験に記述式も設ける等、受講者の多様な個性に配慮した評価を行いたいと思えます。 ③また、今年度は可能な限り、加点するよう心掛けましたが、その必要性は低いものと判断いたしました。同様の趣旨で遅刻者については、適宜補習を行う等といった対応をとりましたが、その点、時間通りにきちんと受講された方の中には不公平感が残ったようでした。私の配慮不足を反省している次第です。 ④来年度は選択科目に移行した点を踏まえ、また、上記の反省点も踏まえ、成績分布の均平化を図られるように、科目運営を行ってまいりたいと思えます。
4125	食産業学群	植物機能開発実験実習	少人数の実験実習となったため、個別に丁寧に指導ができた実習であった。実験実習ではコンピューターを用いた解析も行ったが、学生はコンピューターの基本的な使い方に習熟していない学生もおり、今後はコンピューターリテラシーの復習も取り入れていきたい。また、PCR、電気泳動等の実験では、試薬の計量に用いるピペッター等の扱いも不正確であったことから、今後は実験の基本である試薬の計量等の復習も繰り返し行いながら実験実習を進めていきたい。
4126	食産業学群	動物栄養・飼料学	「テストに出ると言っていた内容と実際に出たテストの内容が異なっていた」との意見があったが、小テストの前の授業では学修すべきポイントを伝えていたが、小テストに出題する全ての問題について事前に予告することはテストを行うことの意味から考えて適切ではないと考えています。
4127	食産業学群	動物遺伝育種学	覚えるというよりは、考える要素が多い内容であり、メンデルイズムと分子レベルの融合的な内容となっており、遺伝学が生産にどう生かされているかを知る良い機会であり、今後もそういう意図と姿勢で講義展開を行う。学生らからのコメントは特になし。
4128	食産業学群	乳と卵の生産科学	新カリキュラムとしての乳と卵の生産科学の1年目の授業であり、担当教員も慣れていない部分があったと思えます。今後は担当教員間で十分な調整をして授業に臨むようにします。
4129	食産業学群	水産増殖学	新カリになって新たに魚病分野が追加され、水生生物の増養殖について幅広い範囲で深い内容の講義ができたと考えている。講義のレベルや内容については、最新の興味深い情報を理解しやすく伝えることができたので、この充実した内容を改善する必要は感じておらず、次年度も同じ内容で（当然新規の知見を盛り込んで）講義を行う予定である。学生の理解度は期待をかなり下回っているものの、今後も水生生物の増養殖現場で行われている努力やものの考え方の理解を促すことで、水産分野に興味を持つ学生が多く出てくることを期待したい。
4130	食産業学群	水産資源生態学	本授業は水産分野の授業として初めて受講する学生が半数を占める科目である一方で、水産分野に進学したい、より専門分野を学びたい学生も受講しているため、各学生にあった授業内容を行う必要がある。今年度は、非常勤講師を中心とした授業実施であったため、全体的に評価が低い傾向にあった。来年度は、理解度が高まるようにシラバスも含めて改善していきたい。また、理解度向上に向け事前・事後学習の強化を図り、理解度を高めていきたい。
4131	食産業学群	生産環境保全学	コメントについても「良かった」との意見が大多数であり、受講学生は講義内容について満足していたと判断される。一方、講義以外の学習時間がやや不足しているため、次回からは課題を増やすことで対応したい。
4132	食産業学群	生産環境情報学	・講義内容の周知 当講義は、基礎から応用（具体例・先進事例）が含まれるため、ガイダンス時（第一回）に授業構成、各担当教員とそれぞれの関連性について明確に示す。 ・講義内容 応用事例に関してAI関連の基礎技術の解説は本講義の本質ではないため、より応用事例の内容等を増やし講義を進めたいと考えている。
4133	食産業学群	プログラミング基礎	3名の教員で分担して実施し、複数の言語とソフトウェアを用いた講義形態であった。相互の連携が不足していたので、次年度以降は教員間の内容の連携を深めていきたい。
4134	食産業学群	農業経済学	「ちゃんと出席している人だけが単位をもらえるようにして欲しいと思う。」 改善していきたいと思えます。
4135	食産業学群	生物資源経済学	SDGsや地球環境問題などの社会経済的な面について講義した。費用便益分析、環境評価手法など、実社会でも使われている分析方法を実践しました。研究遂行のための講義ではないので、理論的な部分をより少なく解説し、実社会との関係性をもっと分かりやすく伝えていきたいと思えます。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4136	食産業学群	食材生産経営戦略論	復習が十分なされていないようなので、毎授業の「前回までの振り返り」の充実を図る。具体的には、毎回、提出を求めているミニレポートは、提出後に学生にコメントする機会がないまま、期末にまとめて返却したが、書きっぱなしで終わってしまうので、次回授業の冒頭に「前回の振り返り時間」を20分ほど確保し、口頭でコメントするように改める。
4137	食産業学群	発生遺伝学	授業評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。結果を見たところ、授業目標達成度のスコアが低いことが判明しました。この課題を改善するため、各回の授業内容を整理し、要点をより分かりやすく説明することを心掛けます。また、事前・事後学修では、各自が主体的に取り組めるプログラムを導入し、学びの深化を図っていきます。今後も充実した内容となるよう、引き続きプログラムの改善に努めます。
4138	食産業学群	生物有機化学	難しい内容であっても理解できるように丁寧に進めたことや、確認テストの実施、解説をしたことに対して良かったというコメントがあったため次年度も継続する。 それでも難しいと思われる部分や、学生の理解度が低いと考えられる部分については、より丁寧に進めることを心がける。
4139	食産業学群	環境科学	中間試験を実施したことや、説明を丁寧にしたことに対して良かったというコメントがあったことから、これらの部分は次年度も継続する。
4140	食産業学群	生理学	生理学を学ぶと自分の体のことがよくわかる。不思議だな、なぜだろう、どうなっているのだろう、と感じたことは自分で調べてみるとさらにおもしろくなる。その積み重ねでからだの理解が進む。からだの理解が進めば健康に生きていくにはどのような生活をしていけばいいのかということがわかるので、自分や家族の日常に役に立つ。今後も学生の興味を引き出す授業を行い、楽しく自学自習できるようにしていきたい。
4141	食産業学群	食料経済論	現時点で来年度の授業担当者は未定であるので、以下は、「仮に担当者（川村）が変わらなければ」という仮定の下での話であることをあらかじめご理解ください。 ・スライドの文章量が多いという意見がありましたが、授業の資料という性格上、分量は多くなります。復習をする中で、資料を活用して要点を把握するようにしてください。 ・パワーポイントの資料の差し替えがあり確認が大変だったという意見がありました。できるだけ新しいもの・正しいものを提供するために差し替えていましたが、最小限の差し替えに止めるようにします。 ・授業の最初にFormsで提出された前回の振り返りについて私からコメントしたが、それが長すぎるという意見があったので、最小限のコメントに止めるようにします。 ・出席確認の方法についての意見も頂きましたが、それぞれの方法には長所と短所があり、ベストな方法を見出すのは難しいというのが実情です。また、出席・欠席の回数は期末試験受験の可否には反映されますが、成績評価に直接反映されていないことも、併せてご理解願います。
4142	食産業学群	食品企業経営戦略論	指定テキストを読むだけであれば1時間程度で予習が可能ですが、実際にはそれ以下しか予習が行われていません。予習の段階で内容をどこまで深められるか、使われている語句の正確な意味を理解し、使いこなせるかどうか、そして自分の身の周りの具体的な企業活動の事例に適用できるかが問われる科目です。経済学と経営学の違いを1/2年のうちにしっかりと理解した上で受講して下さい。 ・「教科書に載っていない資料を移す時間が短く、板書が難しい」「教科書を使って勉強するときに文章が難しい、わかりづらい。配布資料がないのだから、まとめやポイントのスライドくらい書き出す時間がほしい」との改善希望コメントがありますが、専門科目の知識を習得するための基本はテキストの読み込みです。教員が提示するPPTはあくまでも教員のまとめや補足であり、皆さんが行う勉強はテキストが基本としっかりと理解して下さい。教員がまとめたPPTを書き出すことが学ぶことではありません。 ・「教科書が分厚く、授業内容も多く、どこが重要なのか分かりにくかった」 ➡ じっくりと読んで下さい。授業外の学修時間が他科目より圧倒的に少なく1時間にも達していません。事前にしっかりと予習してきた学生からは「難しい用語でも具体的な例えを用いて説明してくれてわかりやすかった」とのコメントが多数出ています。事前にしっかりと予習してきた学生のコメントと何も準備せずにそのまま授業を聞いた学生のコメントでは内容やレベルに大きな違いがある点を理解して履修して下さい。重要な用語は繰り返し説明するように努めます。 「講義資料があまりに高額であった」とのコメントがありますが、大学の専門課程の教科書としては標準的なレベルです。入門や教養レベルではなく専門レベルの知識をしっかりと習得するには必要な投資と考えてみてはいかがでしょうか。
4143	食産業学群	フードシステム調査演習	演習授業なので、演習として学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートする。全般的に良好な反応で、特に学生自身の授業目標到達度は高いので学修効果があったと考えられる。時間外の学習時間は1時間に達しているものの、全学の平均より少ない。森田担当の計量については考察方法を教えてほしいとのことだったので、その部分についても演習時言及したい。
4144	食産業学群	フードサービス事業運営論	一部の学生から2年次に履修したフードサービス産業論と内容的に重複があったとの指摘があったが、2年次の科目は旧カリを履修する上級生との合同の科目であり、旧カリではフードサービス事業運営論という科目がなかったため、一部内容が重複してしまっていた。今年度においては復習した上で、事例を紹介するなどの手法をとっていたが復習部分が「重複」と受け止められた可能性がある。次年度は、新カリの学生のみであるため、フードサービス産業論との棲み分けは問題なくできるであろう。 なお、教室の暑さなどは、この大きさの教室では教員の管理の範疇を超えている。学生自身がエアコンの温度設定を変更するなどの対応をするのが順当だと考える。
4145	食産業学群	食品マーケティング論	グループワークを交えた講義を実施したが、学生からは実践的な学びにつながったなどと好評であった。そのため、次年度も実施していく予定である。一方で、教室の問題やグループワークの時間が短いこと等が指摘された。そのため、学習環境の改善を図りながらも、効果的に学生の食品マーケティングへの関心を高めていきたい。
4146	食産業学群	ローカルフードシステム論	同じテーマの場合は連続して講演して頂いた方が良い。間が空くと前回の内容が抜けてしまうこともあるので可能であればそのようにしてほしい。 ➡ みやぎ県庁に依頼している外部講師の場合、できるだけ連続するように日程調整していますが、業務上の事情により日程が変更になることもある点をご理解頂ければと思います。全体としてローカルフードシステムの全体像を把握できるように調整していきます。
4147	食産業学群	食産業政策論	100人規模のクラスでの講義でも受講者間のコミュニケーションを図る授業を実現するため複数のアプリケーションを使うことが、逆に受講者の負担にもなっているとの指摘があるので、より効果があり負担の少ない手法となるように工夫をしていきたい。
4149	食産業学群	農産食品学	例年行っている、全員プレゼンテーションの実施は継続的に行っていく。本年度行ったように、科目責任教員が作成した教科書とそれを補足するオンラインツール等を活用し、内容の理解がわかりやすくなるような講義を展開する。

通番	開学学群	科目名	授業改善計画
4150	食産業学群	食品衛生学	当該科目は、食品の安全性に関わる技術的な事柄について学ぶ内容である。このため、食中毒菌の名称や生育条件など、基本的な事項についてはある程度暗記が必要である。例年、基本的な知識の定着を図るため、ミニテストを実施し、このことが事前・事後の学習を促すことにつなげることを計画していた。本年度についても、事前・事後学習を促し、ミニテストも実行したのであるが、本年度については、基本的な部分の理解について概ねたっせいできている印象を受けた。ただし、グループワークが理想的に展開できていないようであった。生成AIの影響もあって、自らの発想や展開に乏しく、発想から、調査、取りまとめ、発表までのすべてをPCに任せて成果を得るような発想になっている。これでは、グループワークの体を成していないため、自年度以降は一旦グループワークを中止し、別の教育手法を検討する予定である。受講学生は、当該科目を受講することで、食品衛生に関する技術的な部分の理解を深め、しっかりした基礎固めをしてほしい。
4151	食産業学群	有機化学	当該科目は暗記だけでは十分に対応できず、内容をしっかり把握することが求められる。このため、自らの考えることが重要である旨、授業の中でもしっかり説明する必要があった。ただし、これまでの学習環境の中で、暗記に頼った学習に慣れた者にとっては、慣れない部分があり、苦労しているような印象を受けた。しかし、学年が進行するに従って、暗記ではなく理解が重要になってくる部分も多いため、しっかりした学習を身に着けてもらいたい。当該の科目を受講することを通して、この点伝えられるよう、授業を展開する。 授業の中では、配布した資料を使った演習の時間帯を設けるようにした。この中で、学生間での学び合いの機会を作り、より理解を深めることを測ったものである。いずれにしても、当該科目は内容把握が求められる科目であるため、個別質問の機会もつくり、丁寧に対応する。結果的に、「再履修」となった者についても、これを積極的に捉え、しっかり学習して、以後の研究・学習の基礎になるように指導する。
4152	食産業学群	生化学	前回まで、予習復習のために練習問題を提示し、学習定着を目指すようにした。今回も練習問題を課した結果、予習・復習が前年度より増えているようにおもえた。今後をもっと練習問題を増やして、学習させるようにしたい。
4153	食産業学群	栄養科学	栄養科学は身近な食生活や健康に関わる内容であることから、毎回の「振り返り」で興味深い質問・意見が多く、それらに対する回答・コメントを次の講義資料に掲載し、一部は口頭でも解説することで充実した内容となり、履修学生からも好評であった。自分の食生活を見直すきっかけになったとの意見もあった。本科目は学修内容が多いため、要点は資料にも明記するとともに授業中に強調して解説し、最終回に重要ポイントをまとめたことで効率よく復習しやすくなり、「授業に関して良かった点」として挙げられた。また、スライド・資料の情報量も多くなりがちなので、より分かりやすくするよう常に改善を心がけているが、今後さらに工夫したい。
4154	食産業学群	微生物学	受講者が多く大きな教室での講義だったのでお互いがやりにくかった中でも、できるだけ皆の反応を見ながら進めるようにはしました。それでも相互コミュニケーションはまだ不十分とも感じています。微生物には未知のものが多くあり、無限の可能性が秘められています。微生物に興味をもった人は、ぜひ卒業研究で関係の深い研究室を選んで、実際に微生物を扱ってみてほしいと思います。次年度は、講義内容の整理・明晰化、重要点の絞り込み、授業中の学生・教員間の相互コミュニケーションの向上を目指します。
4155	食産業学群	微生物学実験	当初30人程度のクラスとなることを想定していましたが、実際には13人と極めて少数の受講生を対象に実験を指導することになりました。あえて本科目を履修しようとする人の多くは、微生物あるいはそれに関連する内容の卒業研究に取り組む予定だったので、皆が興味をもって意欲的に学んでいたと思います。発表会形式で実験データのプレゼンも行ってもらいましたが、次年度以降も続けていきたいと思います。さらに多くの人に受講してもらえよう、2年次に開講される微生物学や食品衛生学実験の時間を使って周知していきたいと思います。
4156	食産業学群	食品化学工学	学生からの質問とそれを生成AIに回答させたものを提出することとし、次回の講義の冒頭で生成AIの回答に対するコメント（ファクトチェックを含む）を行うことで振り返り学習とした。生成AIへの質問内容から、学生の関心と講義の理解度を把握することができ、かつ、生成AIの回答が講義を補足する情報を付与していたため、復習としての理解度向上につながった。講義の進捗とともに質問の質が向上しており、学生の意欲度が高まったものと推察された。このような生成AIの活用は学習の質の向上に寄与するものと考え、継続して授業改善の取り組みとする。
4157	食産業学群	官能評価学	集中講義の日程を早めに確定したい
4158	食産業学群	食品機能開発学	アンケート結果より、良かった点として、「重要な語句が分かりやすい講義資料でした。」「具体的な事例や商品名を出して説明していた点が良かった。」「ポイントをまとめて記述してあったのでわかりやすかった。」などの声が聞かれたことは、食品の栄養・機能性について原理のみならず応用・実践力を高める本授業の目的が理解されたと感じています。授業外の学習時間は例年より増加しており良い傾向ですが、引き続き講義終了後に課題を出して復習の取り組みが自主的にできるよう丁寧に説明していきたいです。本学類の卒業生は、食品メーカーの開発部門に就くことも多く、また、昨今は食品卸業界でも商品開発を行うケースも増えています。高齢化の進展により、栄養機能性を付与したオーダーメイド型の食品開発が求められていくことから、より応用性を高められる良い授業となるよう今後も頑張っていきたいと考えております。